

第 3 回 青梅市公共交通協議会

市民意向調査の結果

1. 実施概要
2. アンケート集計分析結果
3. 青梅市の現状と市民意向からみた課題

平成24年2月7日

1 アンケート実施概要

1-1 配布回収状況

(1) 配布回収方法

- 調査票を調査対象者あてに郵送配布し、回答は後日郵送回収した。
- アンケートの回収は、宛先は青梅市役所で料金受取人払いとした。
- 配布回収は12月に実施した。

(2) 配布物件

- お願い状(A4判、裏側に関連情報)
- 調査票(A3判)
- 返信用封筒

(3) 配布回収数

- 市域全体を対象に調査対象者 3,000 人を無作為に抽出して、概ね人口の割合に応じて配布した。
- 昨年末を締め切りとして回収した結果、回収数 1,201 票、回収率 40.0%となった。

表 アンケートの配布・回収状況

		世帯数	人口	配布数	抽出率	回収数	回収率
都市的地域	青梅地区	5,027	11,703	265	2.3%	120	45.3%
	長淵地区	9,145	22,032	456	2.1%	177	38.8%
	大門地区	8,528	20,688	437	2.1%	170	38.9%
	東青梅地区	7,582	16,272	386	2.4%	164	42.5%
	新町地区	8,411	20,084	434	2.2%	146	33.6%
	河辺地区	7,533	16,191	393	2.4%	145	36.9%
	今井地区	4,682	11,341	209	1.8%	74	35.4%
	梅郷地区	4,352	11,094	221	2.0%	96	43.4%
	小計	55,260	129,405	2,801	2.2%	1,092	39.0%
中山間地域	沢井地区	1,575	3,817	83	2.2%	46	55.4%
	小曾木地区	2,262	4,372	76	1.7%	26	34.2%
	成木地区	1,147	2,266	40	1.8%	21	52.5%
	小計	4,984	10,455	199	1.9%	93	46.7%
居住地不明						16	
合計		60,244	139,860	3,000	2.1%	1,201	40.0%

(世帯数、人口：平成23年10月1日現在)

1-2 配布物件

青梅市からのお願いです

公共交通についてのアンケートにご協力ください

公共交通なかでも路線バスは、地域の生活の足として重要な役割を担っています。しかし利用者の減少などにより、バス事業者の経営は大変厳しい状況におかれています。

青梅市においては、バス路線の運行を維持するため、赤字路線への補助を行っていますが、今後も路線バスを維持していくためには、バス事業者の経営努力のみならず、行政の公共交通活性化の取り組みや地域の皆様に利用していただくことが必要です。

つきましては、今後の路線バスのあり方について、地域の皆様のお考えをうかがうため、アンケートを実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

お答えいただいたアンケートは、**平成 23 年 12 月 30 日（金）**までに、返信用封筒に入れてポストへご投函くださるようお願いいたします。

平成 23 年 12 月

青梅市長 竹内 俊夫

《 問い合わせ先 》

青梅市 企画部 企画調整課 公共交通担当 電話 0428-22-1111 内線 2423
〒198-8701 青梅市東青梅 1 丁目 11 番地の 1 青梅市役所

《 本調査について 》

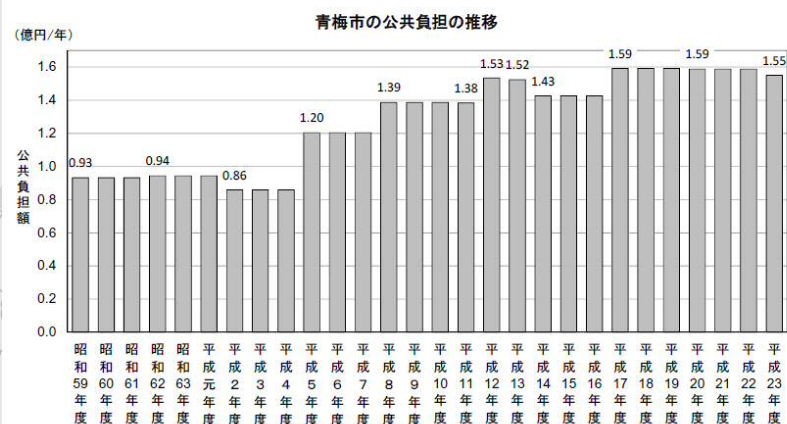
- ・ 本アンケートは、今後の青梅市の公共交通を考える上で大変重要なものです。世帯の皆様に関係することですので、ご家族の方と一緒に回答していただけると幸いです。
- ・ 回答いただいたアンケートの内容は、統計的に処理します。また、上記目的以外に使用することはありません。
- ・ 回答は、選択肢の番号に○をつけるか、_____の部分に具体的な内容をご記入ください。

青梅市の路線バス

路線バスの運営は、皆さんに利用して
いただくことで支えられています。
路線バスを継続していくために、
もっと路線バスを利用しましょう。

～乗って守ろう！使って育てよう！公共交通～

現在、青梅市内を運行するバス路線の多くは、赤字路線となっており、青梅市では、税金を使って赤字を補てんすることで（公共負担）、バス路線を維持しています。
青梅市の公共負担は昭和59年から始まり、年間負担額はこの30年間ほどで当初の1.5倍の約1億5千万円となっています。



● 市内を運行する路線バスの詳細な情報は、バス事業者のHPをご覧ください。

東京都交通局（都営バス）：<http://www.kotsu.metro.tokyo.jp/bus/>

西東京バス株式会社：<http://www.nisitokyobus.co.jp/>

西武バス株式会社：<http://www.seibu-group.co.jp/bus/>

青梅市の公共交通に関するアンケート

1 (共通質問) あなたとあなたの世帯についてうかがいます。

お住まいはどちらですか	青梅市 _____ (町丁名までお答えください。記入例: 本町、長淵2丁目、梅郷6丁目、吹上など)		
あなたの性別は	1) 男性 2) 女性		
あなたの年齢は	1) 15～22 歳 2) 23～44 歳 3) 45～64 歳 4) 65～74 歳 5) 75 歳以上		
世帯の構成を教えてください		男 性	女 性
	14歳以下の方	_____ 人	_____ 人
	15～64歳の方	_____ 人	_____ 人
	65歳以上の方	_____ 人	_____ 人

あなたの世帯では自動車をお持ちですか	1) 持っている 2) 持っていない └─▶ (個人専用 _____ 台、家族共用 _____ 台)		
ご自宅の最寄り「バス停」についてうかがいます	最寄りのバス停をご存知ですか	1) 知っている 2) 近くにバス停はない 3) 知らない └─▶ (バス停名 _____)	
	そこまでの所要時間	徒歩で _____ 分	
ご自宅の最寄り「鉄道駅」についてうかがいます	最寄りの鉄道駅はどこですか (1つだけ)	1) 小作 2) 河辺 3) 東青梅 4) 青梅 5) 宮ノ平 6) 日向和田 7) 石神前 8) 二俣尾 9) 軍畑 10) 沢井 11) 御嶽 12) その他 → 駅名 _____	
	そこまでの主な交通手段 (1つだけ)	1) 徒歩 2) 自転車 3) バイク 4) 自家用車 5) バス 6) タクシー・他	
	そこまでの所要時間	自宅から駅まで _____ 分	

青梅市内の路線バスの利用についてうかがいます	ご家族(あなたも含め)にバスを利用する方はいらっしゃいますか	1) いる 2) いない → 3 へお進みください	
	その方の性別は (お2人までご記入ください)	1人目の方 1) 男性 2) 女性	2人目の方 1) 男性 2) 女性
	その方の年齢は	1) 14 歳以下 2) 15～22 歳 3) 23～44 歳 4) 45～64 歳 5) 65～74 歳 6) 75 歳以上	1) 14 歳以下 2) 15～22 歳 3) 23～44 歳 4) 45～64 歳 5) 65～74 歳 6) 75 歳以上
	利用するバス停区間は	_____ ～ _____	_____ ～ _____
	そのバスでの移動目的は何ですか (1つだけ)	1) 通勤 2) 通学 3) 買物 4) 病院 5) その他	1) 通勤 2) 通学 3) 買物 4) 病院 5) その他
	そのバスの乗車時刻 (24 時間表記で)	_____ 時 _____ 分頃	_____ 時 _____ 分頃
	そのバスの利用頻度は (1つだけ)	1) 週5日以上 2) 週3～4日 3) 週1～2日 4) 週1日未満	1) 週5日以上 2) 週3～4日 3) 週1～2日 4) 週1日未満

2

この質問は、前問のバスを利用する方がお答えください。

1. 利用する路線バスの「サービス内容」について ①満足度 ②重要度 をうかがいます。

①満足度 → 各項目ごとに、1～5のあてはまるものに○をつけてください。

②重要度 → 路線バスを利用する際に重要な項目を、2つだけ選んで○をつけてください。

「サービス内容」 ↓		1人目の方						2人目の方					
		①満足度					②重要度	①満足度					②重要度
		1 満足	2 まあ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満		1 満足	2 まあ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	
1	時刻表や経路等の情報のわかりやすさ	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
2	運行経路、バスの行先	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
3	運行本数（平日）	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
4	〃（休日）	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
5	始発時刻（平日）	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
6	〃（休日）	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
7	終発時刻（平日）	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
8	〃（休日）	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
9	時刻表どおりの運行	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
10	運賃	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
11	バス停間隔(バス停位置)	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
12	鉄道との乗り継ぎ(バス停)	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
13	鉄道との乗り継ぎ(時間)	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
14	バス停でのバス待ち環境	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
15	バス車両の乗降のしやすさ	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	

2. 青梅市内の「現在の公共交通サービス」について、改善要望がありましたら具体的にご記入ください。

3 (共通質問) 日常生活における「外出時の移動」についてうかがいます。

1. 世帯の中(あなたご自身も含めて)に、日常生活における「外出時の移動」に関して、困っている方
や不便を感じている方はいらっしゃいますか。

1) いる→()人 2) いない→ **4** へお進みください

2. 外出時の移動に関して、困ったり不便を感じているのは、どのような方ですか。

※2人以上いらっしゃる場合は、お2人までご記入ください。

	1人目の方	2人目の方
性別	1) 男性 2) 女性	1) 男性 2) 女性
年齢	1) 14 歳以下 2) 15～22 歳 3) 23～44 歳 4) 45～64 歳 5) 65～74 歳 6) 75 歳以上	1) 14 歳以下 2) 15～22 歳 3) 23～44 歳 4) 45～64 歳 5) 65～74 歳 6) 75 歳以上
職業	1) 会社員等の勤め人 2) 自営業 3) パート、アルバイト 4) 専業主婦、家事手伝 5) 学生、生徒、児童 6) 無職 7) その他	1) 会社員等の勤め人 2) 自営業 3) パート、アルバイト 4) 専業主婦、家事手伝 5) 学生、生徒、児童 6) 無職 7) その他

3. 外出時の移動で困ったり不便を感じているのは、どのような場合ですか。移動内容をお答えください。

	1人目の方	2人目の方
出発地	1) 自宅 2) 自宅以外→ 地名 施設	1) 自宅 2) 自宅以外→ 地名 施設
目的地	地名・施設等	地名・施設等
移動目的 (1つだけ)	1) 通勤 2) 通学 3) 買物 4) 病院 5) その他→具体的に	1) 通勤 2) 通学 3) 買物 4) 病院 5) その他→具体的に
出発時刻	1) 出発時刻は 時 分頃 2) 出発時刻は特に関係ない	1) 出発時刻は 時 分頃 2) 出発時刻は特に関係ない
頻度	1) 週5日以上 2) 週3～4日 3) 週1～2日 4) 週1日未満	1) 週5日以上 2) 週3～4日 3) 週1～2日 4) 週1日未満

4. 外出時の移動に関して、困ったり不便を感じているのは、なぜですか。(1つだけ)

1人目の方	2人目の方
1) 交通手段がなく、徒歩や自転車利用は大変だから 2) 交通手段がなく、送迎やタクシーが必要だから 3) 路線バスはあるが、希望の時間に合わない 4) 出発地から、乗車バス停までが遠いから 5) 降車バス停から、目的地までが遠いから 6) 身体に障がいがあり、路線バスを利用しづらい 7) その他→具体的に	1) 交通手段がなく、徒歩や自転車利用は大変だから 2) 交通手段がなく、送迎やタクシーが必要だから 3) 路線バスはあるが、希望の時間に合わない 4) 出発地から、乗車バス停までが遠いから 5) 降車バス停から、目的地までが遠いから 6) 身体に障がいがあり、路線バスを利用しづらい 7) その他→具体的に

5. 上記のことに対する改善要望や、その他外出時の移動に関する問題がありましたら、具体的にご記入ください。

4

(共通質問) 青梅市内の「路線バスの今後の維持・継続」についてうかがいます。世帯の意見としてお答えください。

1. あなたの世帯にとって、地域を運行する路線バスの必要性を、どのように思いますか。(1つだけ)

- 1) 家族の日常生活には、なくてはならない交通手段である
- 2) 普段は利用していないが、必要なときにないと困る
- 3) 現在は必要ないが、将来クルマを運転できなくなったときにないと困る
- 4) 自分の世帯には直接必要ないが、駅から遠い人やクルマのない人には必要である
- 5) あまり必要性を感じない

2. 現在、市内の一部の路線バスは、利用者の運賃収入だけでは、バス運行にかかる経費をまかなえない状況にあり、青梅市では路線バスの運行を維持するため、その赤字への補助として、年間約1億5千万円を税金によって公共負担しています。 ※お願い状の裏面をご覧ください

① 青梅市の路線バスに関する公共負担の状況について、ご存知でしたか。(1つだけ)

- 1) 知らなかった
- 2) 路線バスの赤字は知っているが、赤字への補助は知らなかった
- 3) 知っていた

② 現在の、路線バスを維持するための公共負担について、どのように思いますか。(1つだけ)

- 1) さらに公共負担を増やし、路線バスを改善していくべき →3. へお進みください
- 2) 公共負担をこのまま継続して、路線バスを維持していくべき →3. へお進みください
- 3) 公共負担は必要だが、現在の補助額は高いと思うので、減らすべき
- 4) 路線バスへの赤字補助は必要ない、廃止となってもやむを得ない →3. へお進みください

3)
を
選
ん
だ
方

→③ 公共負担を減らすために、どのようにするべきだと思いますか。(1つだけ)

- 1) 運行本数を減らすなどして、運行経費を削減する
- 2) バス利用者を増やすなどして、運賃収入を増やす
- 3) 運賃を値上げして、運賃収入を増やす
- 4) 路線バスよりも、公共負担の小さい交通手段や方法に切り替える
- 5) その他→具体的に

3. 日常生活をおくる上で、路線バスを利用するとしたら、最低でもどの程度の運行頻度が必要ですか。(1つだけ)

- 1) 最低限、朝、昼、夕に1本程度あればよい
- 2) 最低限、朝、昼、夕に2本ずつ程度あればよい
- 3) 最低でも1時間に1本程度は必要
- 4) 最低でも1時間に2本程度は必要

4. 青梅市内の「今後の公共交通のあり方」に関して、ご意見がありましたら自由にご記入ください。

本アンケートへご協力いただき、大変ありがとうございました。
ここでいただいたご意見は、今後の公共交通計画の検討に向けて活用させていただきます。

2 アンケート集計分析結果

2-1 アンケート集計分析の視点

- アンケート結果の集計・分析は、各設問のねらいを踏まえて、以下の視点により分析を行う。

設問	設問のねらい	分析の視点
Q1	バス利用の現状を把握する	- バス利用者はどのくらいいるのか - バス利用者はどのような人か - バス利用者がある世帯とない世帯の違いは何か
Q2	利用者から見たバスサービスの問題点や改善点を探る	- 現在のバスサービスに対して不満を感じていることは何か（不満度が高く、かつ重要度が高い項目の抽出） - 路線ごとに違いはあるのか
Q3	市民の移動ニーズと公共交通サービスが適合していない部分を探る	- 外出時の移動で困っている人はいるのか - 外出時の移動で困っているのはどのような人か
Q4	路線バスの今後の維持・継続に関する市民の意向を把握する	- バス路線に対して市民は必要性を感じているのか - 公共負担に関してどの程度知られているのか - 公共負担に関して市民はどうしていきべきと考えているか - 必要最低限のバスサービスレベルはどの程度か

2-2 バス利用の現状(Q1)

(1) バス利用者はどのくらいいるのか

- バス利用者の割合は、青梅市全体で 21%と、駅から離れた地区で高くなっている。
- 利用頻度別にみると、週5日以上利用する人は青梅市全体で 3%と、利用頻度が低いほどバス利用者の割合は大きくなる。

図 地区別のバス利用率
(バス利用者数／世帯人数)

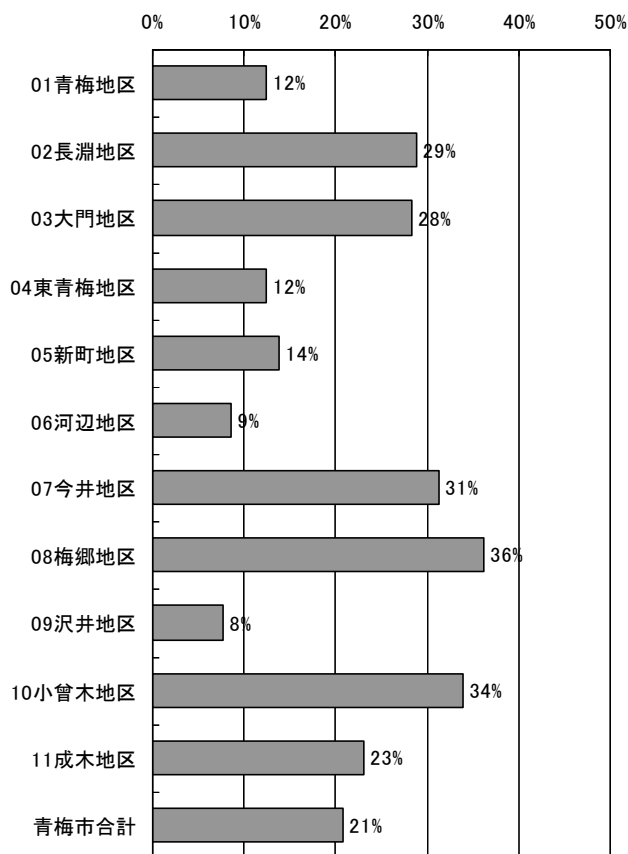
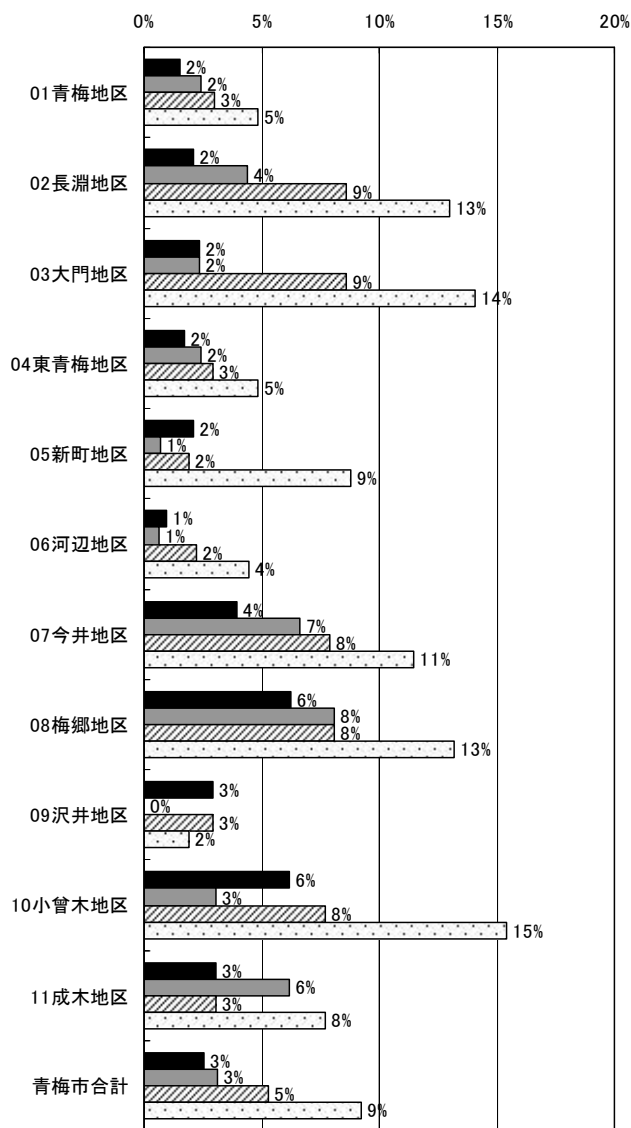


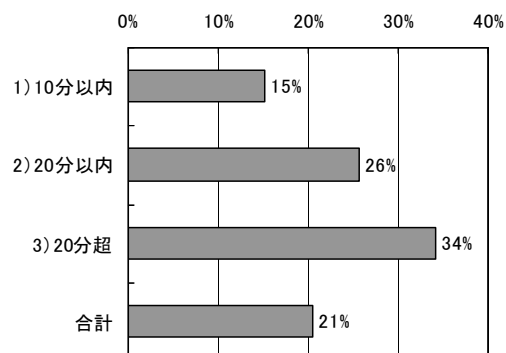
図 利用頻度別のバス利用率



■ バス利用者数(週5日以上) ■ バス利用者数(週3～4日)
▨ バス利用者数(週1～2日) □ バス利用者数(週1未満)

	世帯人数	バス利用者数	バス利用率
01 青梅地区	332	41	12%
02 長淵地区	476	137	29%
03 大門地区	420	119	28%
04 東青梅地区	412	51	12%
05 新町地区	422	58	14%
06 河辺地区	316	27	9%
07 今井地区	227	71	31%
08 梅郷地区	273	99	36%
09 沢井地区	103	8	8%
10 小曾木地区	65	22	34%
11 成木地区	65	15	23%
青梅市合計	3111	648	21%

図 鉄道駅への所要時間別バス利用率



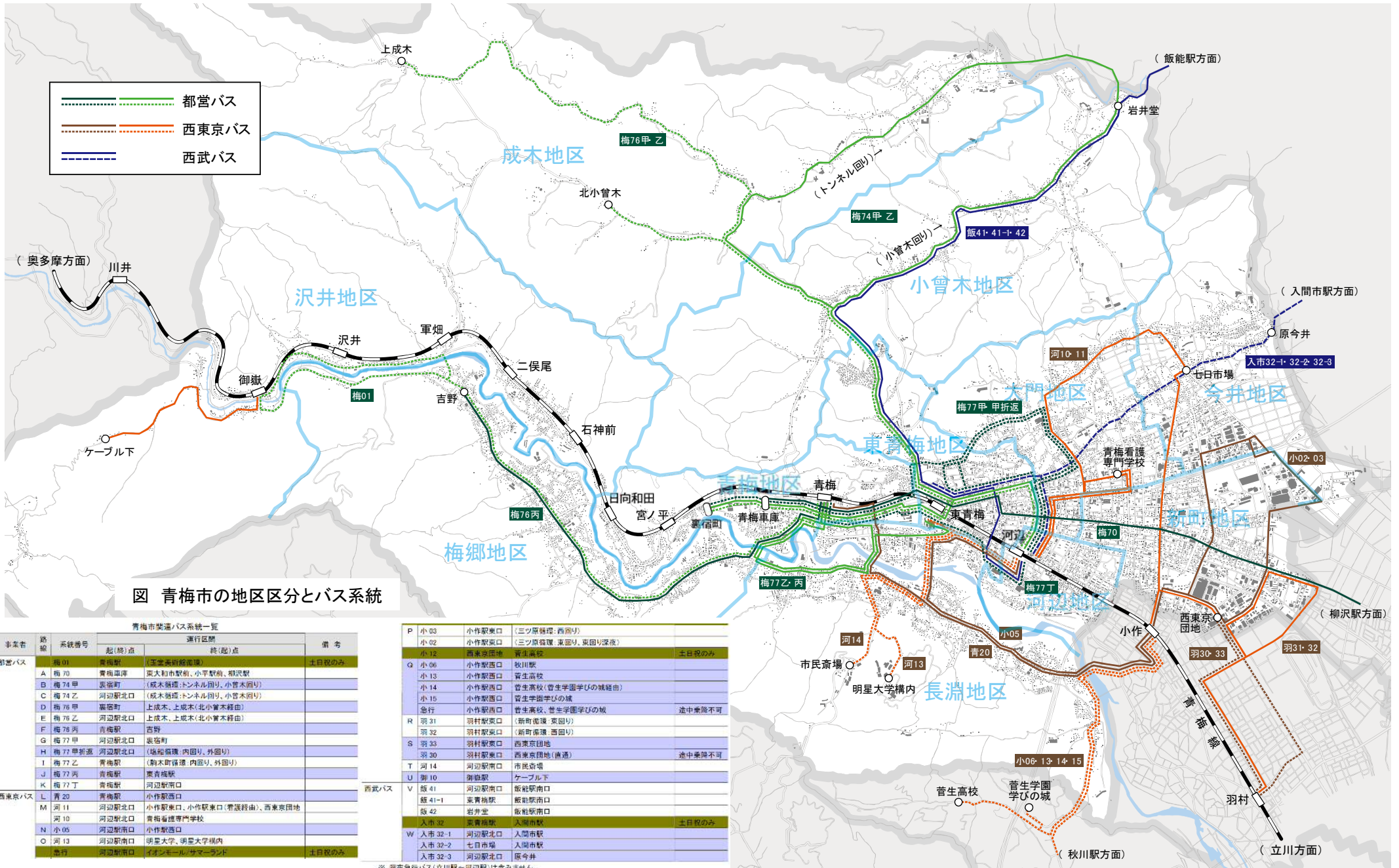


図 バス利用率とバスサービスレベル

バスの運行本数（平日）

- 1～ 50 本
- 50～100 本
- 100～150 本
- 150～200 本
- 200 本～

バスの利用者割合

- ～10%
- ～20%
- ～30%
- ～40%
- ～50%
- 50%～

バスの運行本数：各バス停間における路線バスの1日の往復運行本数
 バスの利用者割合：アンケート調査結果における、
 バスの利用人数の合計／世帯の構成人数の合計

図 バス利用率とバスサービスレベル

バスの運行本数（平日）

- 1～ 50 本
- 50～100 本
- 100～150 本
- 150～200 本
- 200 本～

バスの利用者割合

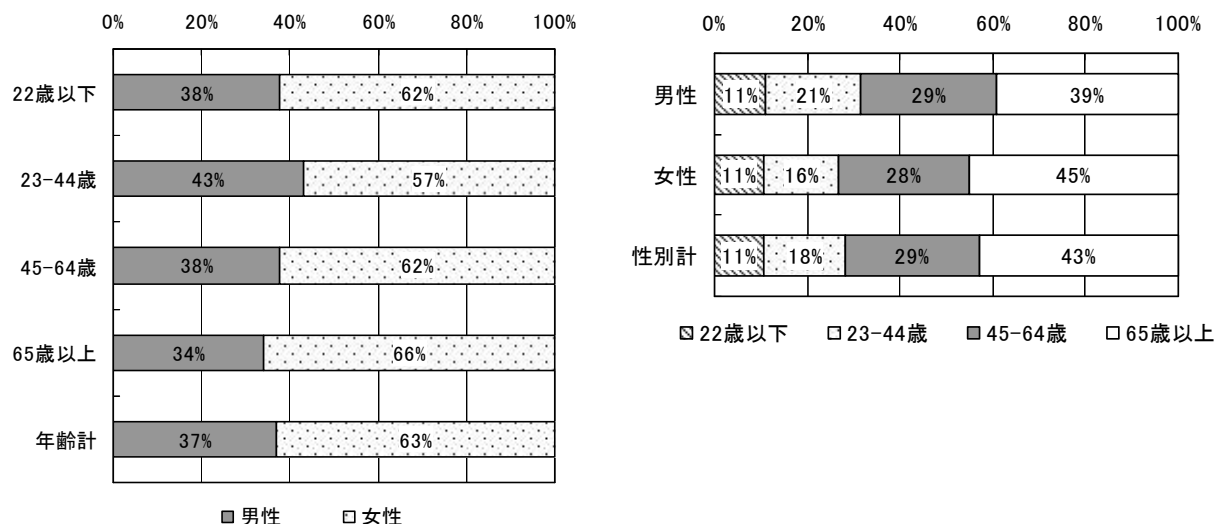
- ～10%
- ～20%
- ～30%
- ～40%
- ～50%
- 50%～

バスの運行本数：各バス停間における路線バスの1日の往復運行本数
 バスの利用者割合：アンケート調査結果における、
 バスの利用人数の合計／世帯の構成人数の合計

(2) バス利用者はどのような人か

- バス利用者は、どの年代も概ね4：6で女性の割合が大きい。
- バス利用者は、男性・女性とも高齢になるほど割合が大きくなる。

図 バス利用者の年齢階層と性別構成



- バスの利用目的は、高齢になるほど、買物や病院目的の利用割合が高くなっている。
- バス利用頻度は、通勤・通学は週5日以上、買物・病院は週1～2日以下、その他は週1日未満の割合が大きく、バス利用形態は目的・利用頻度によって大きく3つのパターンに分かれる。

図 年齢階層別のバス利用目的

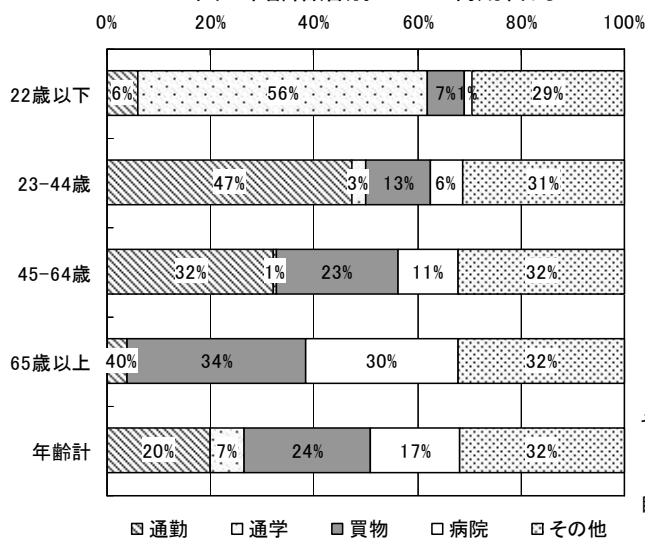
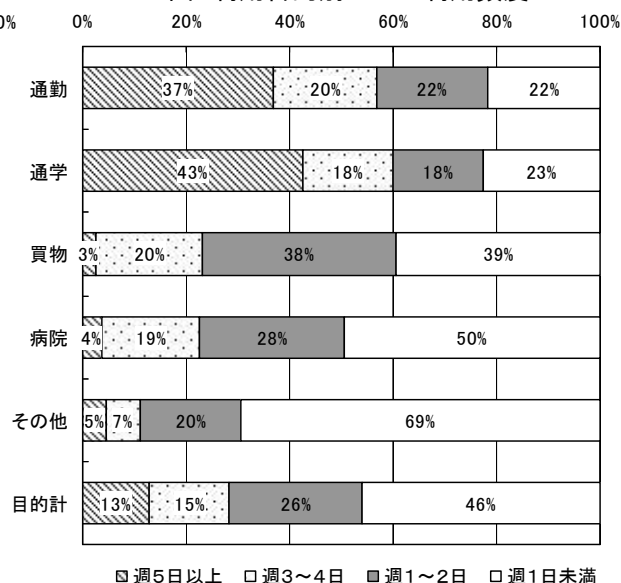


図 利用目的別のバス利用頻度



- 高齢者はバス利用率は高いが、利用頻度は低い。

図 年齢階層別のバス利用率

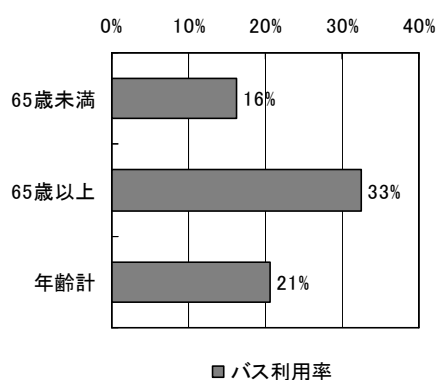
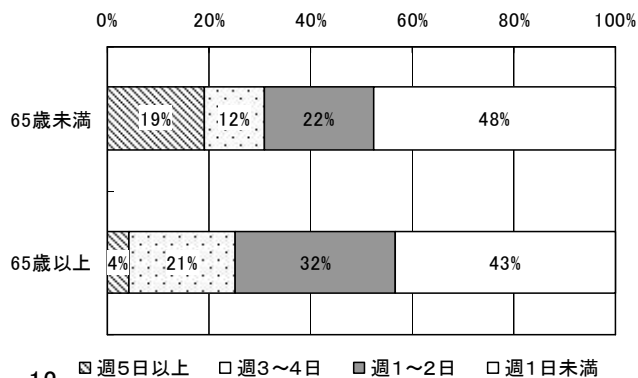


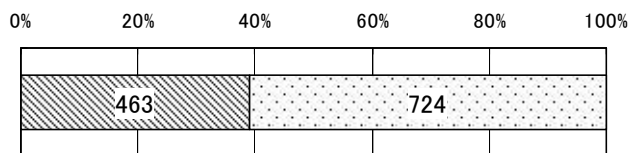
図 年齢階層別のバス利用頻度



(3) バス利用者がいる世帯とない世帯の違いは何か

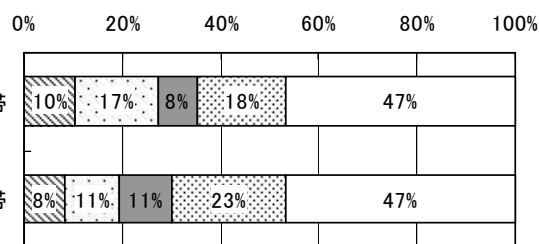
- バス利用者がいる世帯とない世帯は、概ね4:6の割合となっている。
- バス利用者がいる世帯は、高齢者世帯、自動車非保有の割合が高くなっている。
- バス利用者がいない世帯は、多くはバス停から離れているわけではなく(バス停が近くにいる世帯は1割程度)、またバス停を知らないという割合が高くなっている。

図 バス利用者の有無別世帯数



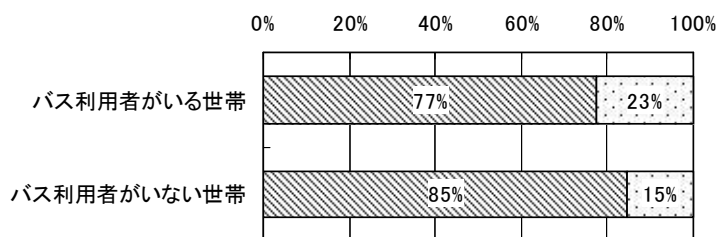
■ バス利用者がいる世帯 □ バス利用者がいない世帯

図 世帯構成



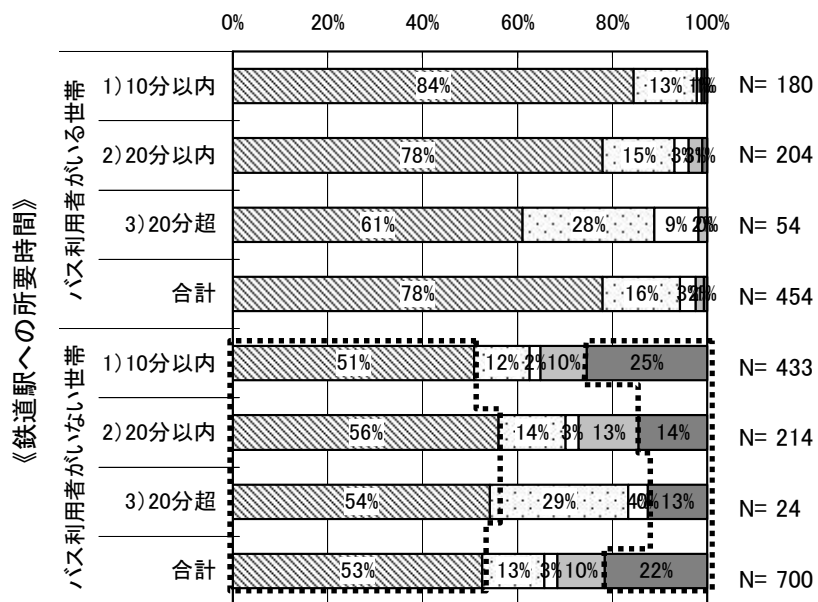
■ 1 高齢者単身世帯 □ 2 高齢夫婦等世帯 ■ 3 その他単身世帯
□ 4 その他2人世帯 □ 5 その他3人以上世帯

図 自動車保有状況



■ 自動車保有 □ 自動車非保有

図 バス停近接性



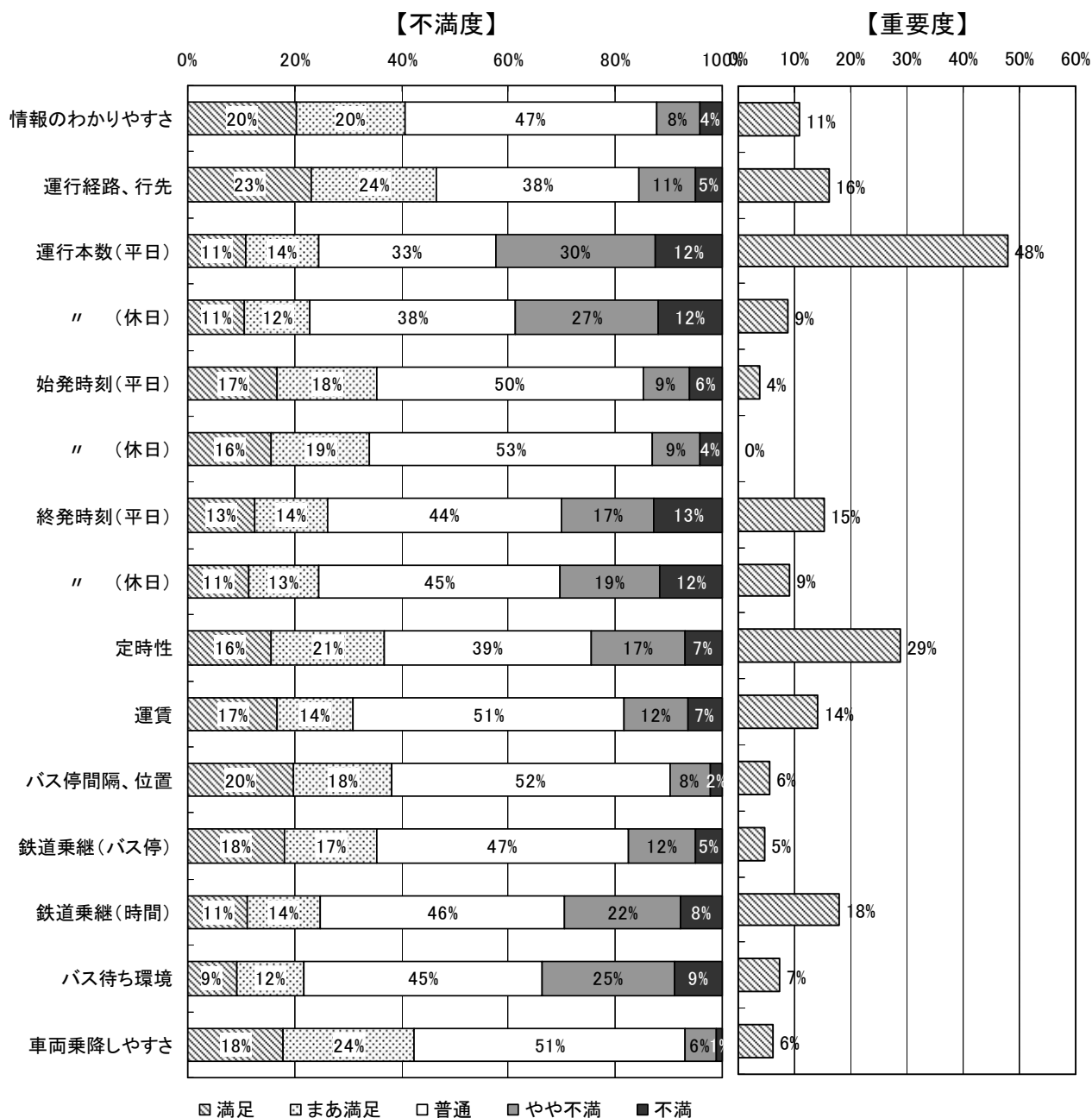
■ 1) 5分以内 □ 2) 10分以内 □ 3) 10分超 □ 4) 近くにない ■ 5) 知らない

2-3 利用者から見たバスサービスの問題点(Q2)

(1)現在のバスサービスに対して不満を感じていることは何か

- 不満度(不満+やや不満)については、「運行本数(平日・休日)」、「終発時刻(平日・休日)」、「鉄道乗継(時間)」、「バス待ち環境」、「定時性」の割合が高くなっている。
- 重要度については、「運行本数(平日)」、「定時性」の割合が高くなっている。
- 今後のバスサービス改善に向けて、不満度が高くかつ重要度も高い、「運行本数(平日)」、「定時性」「鉄道乗継(時間)」「終発時刻(平日)」について、改善あるいは補完する方策が必要である。
- 目的別にみると、買物・病院目的は通勤・通学目的に比べて、必ずしも高いサービスレベルを求めているわけではない。

図 バスサービスに対する不満度と重要度



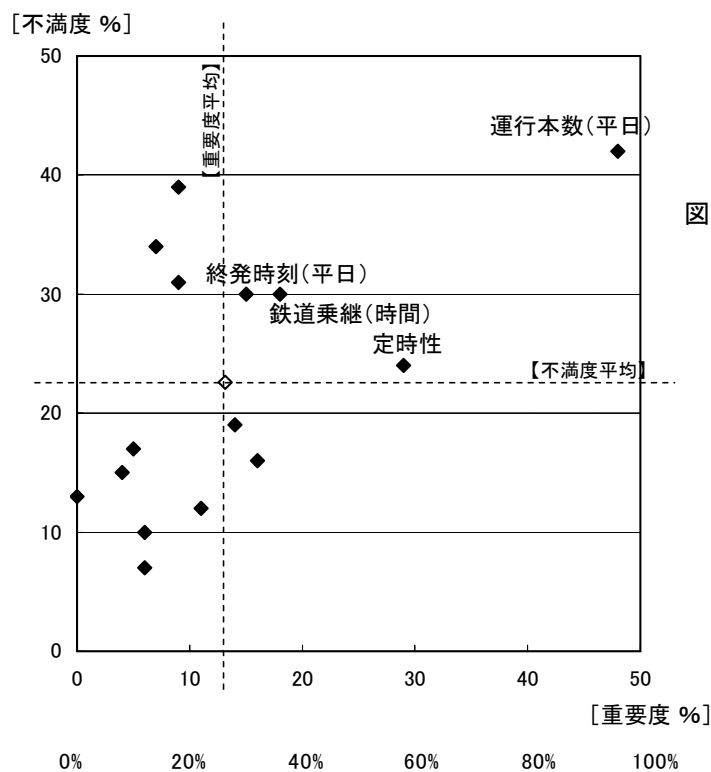


図 バスサービスに対する不満度(やや不満+不満)の割合と重要度の割合の分布

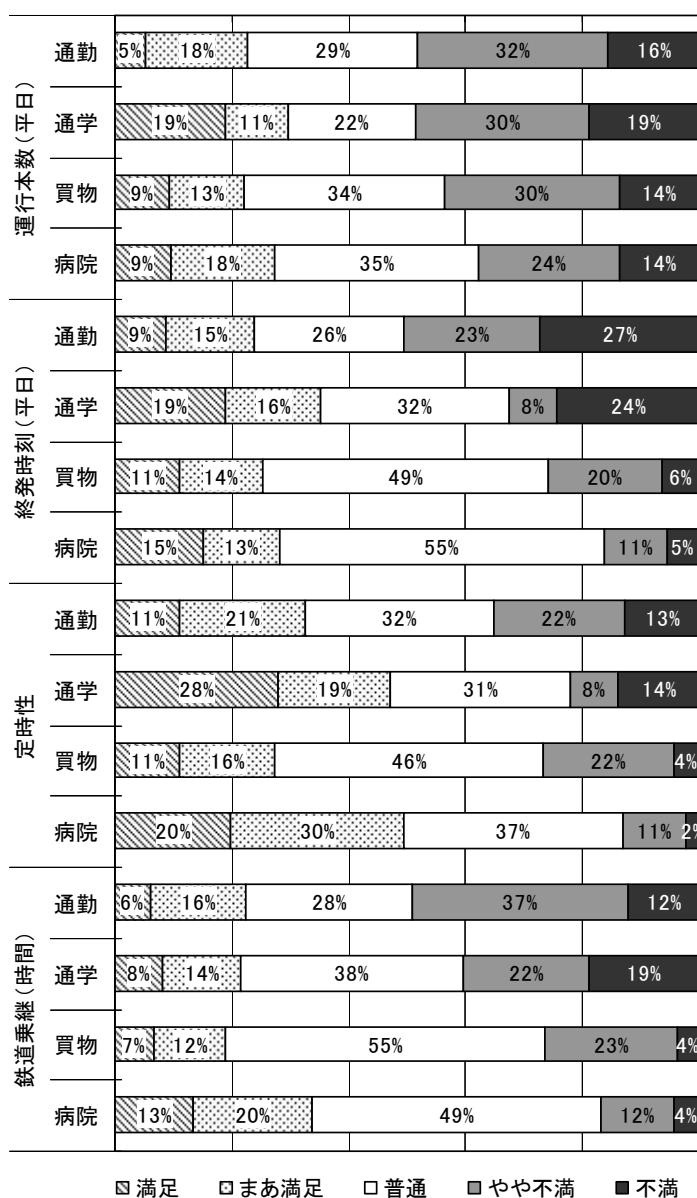


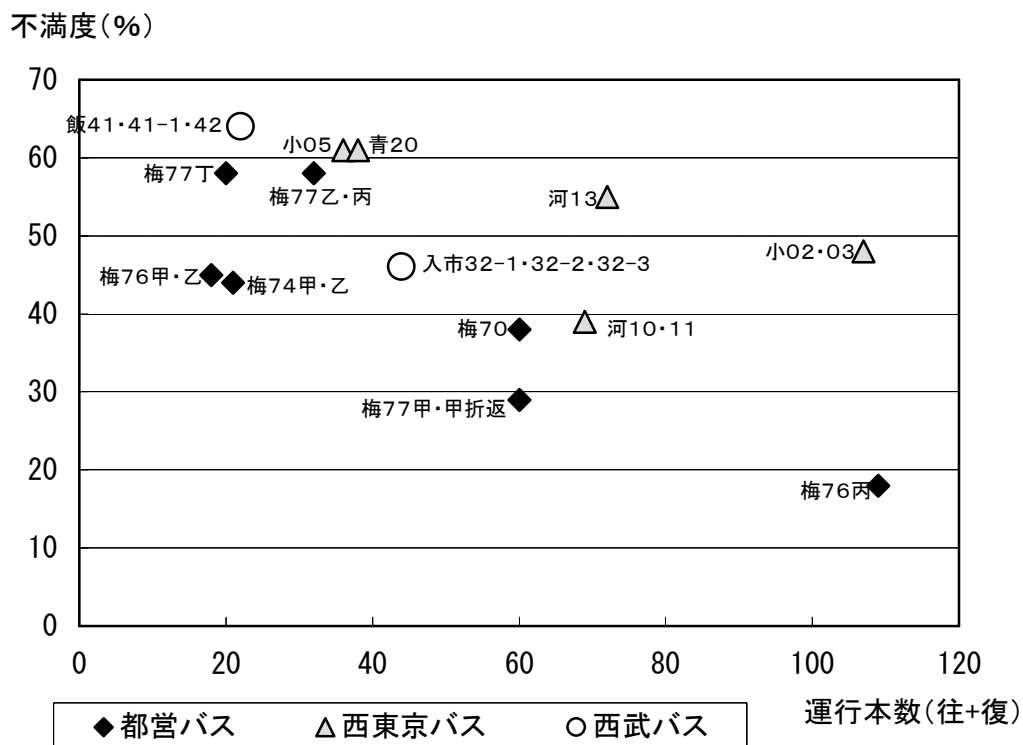
図 利用目的別のバスサービスに対する不満度

(2) 路線ごとに違いはあるのか

① 路線別の運行本数と不満度の関係

- 運行本数が少ない路線では不満度が高く、多い路線では不満度が低い傾向がみられる。
- 概ね1時間に2本程度ある路線(60本/日・往復程度)は、不満度が50%以下となっている。

図 バス路線の運行本数と不満度



- 小02・03の不満度が高い理由としては、梅76丙と比べると昼間時の本数が少なく(河13と同レベル)、回答者は昼間時の利用者が多いためと考えられる。

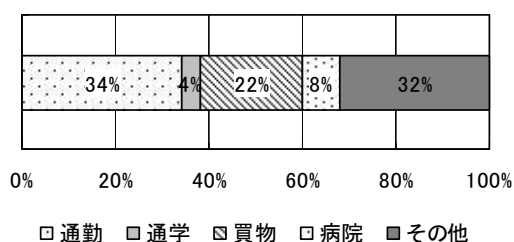
運行本数(小02・03)

	東回り	西回り
始発～8時台	11	16
9～16時台	20	21
17時～終発	22	17
合 計	53	54

運行本数(梅76丙)

	吉野行	青梅行
始発～8時台	11	12
9～16時台	27	28
17時～終発	17	14
合 計	55	54

図 小02・03利用者の利用目的



運行本数(河13)

	明星行	河辺行
始発～8時台	7	6
9～16時台	18	18
17時～終発	11	12
合 計	36	36

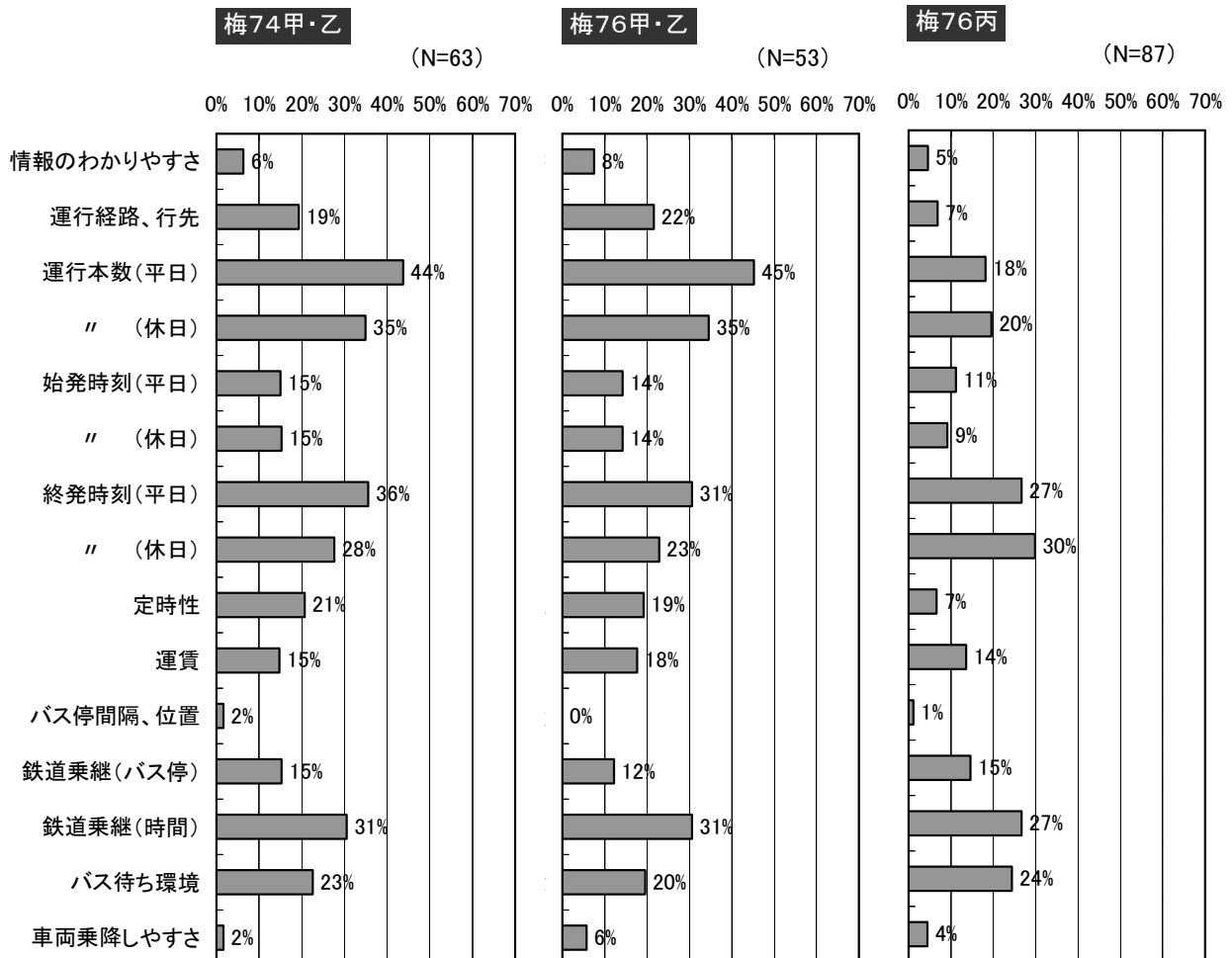
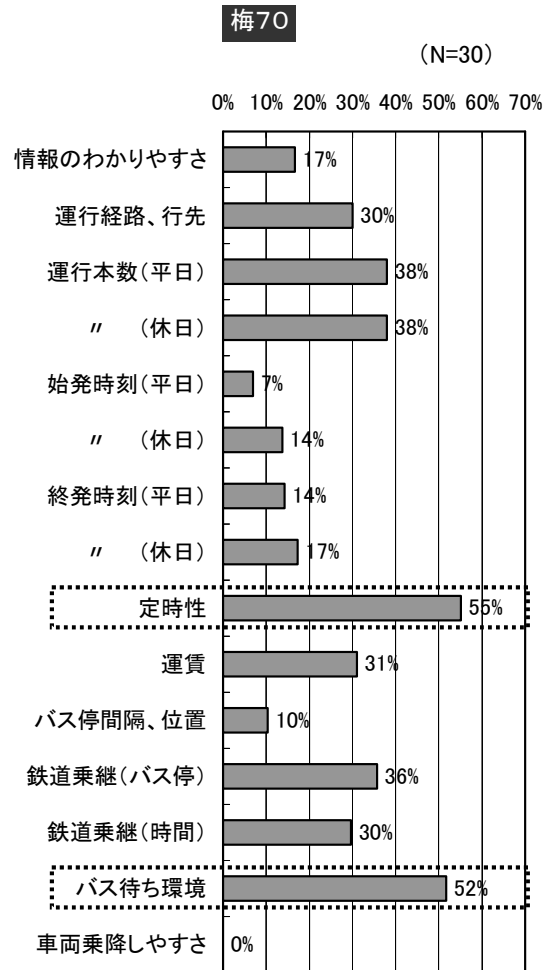
図 路線別のバスサービスに対する不満度

② 路線別の不満度が高い項目

1) 都営バス

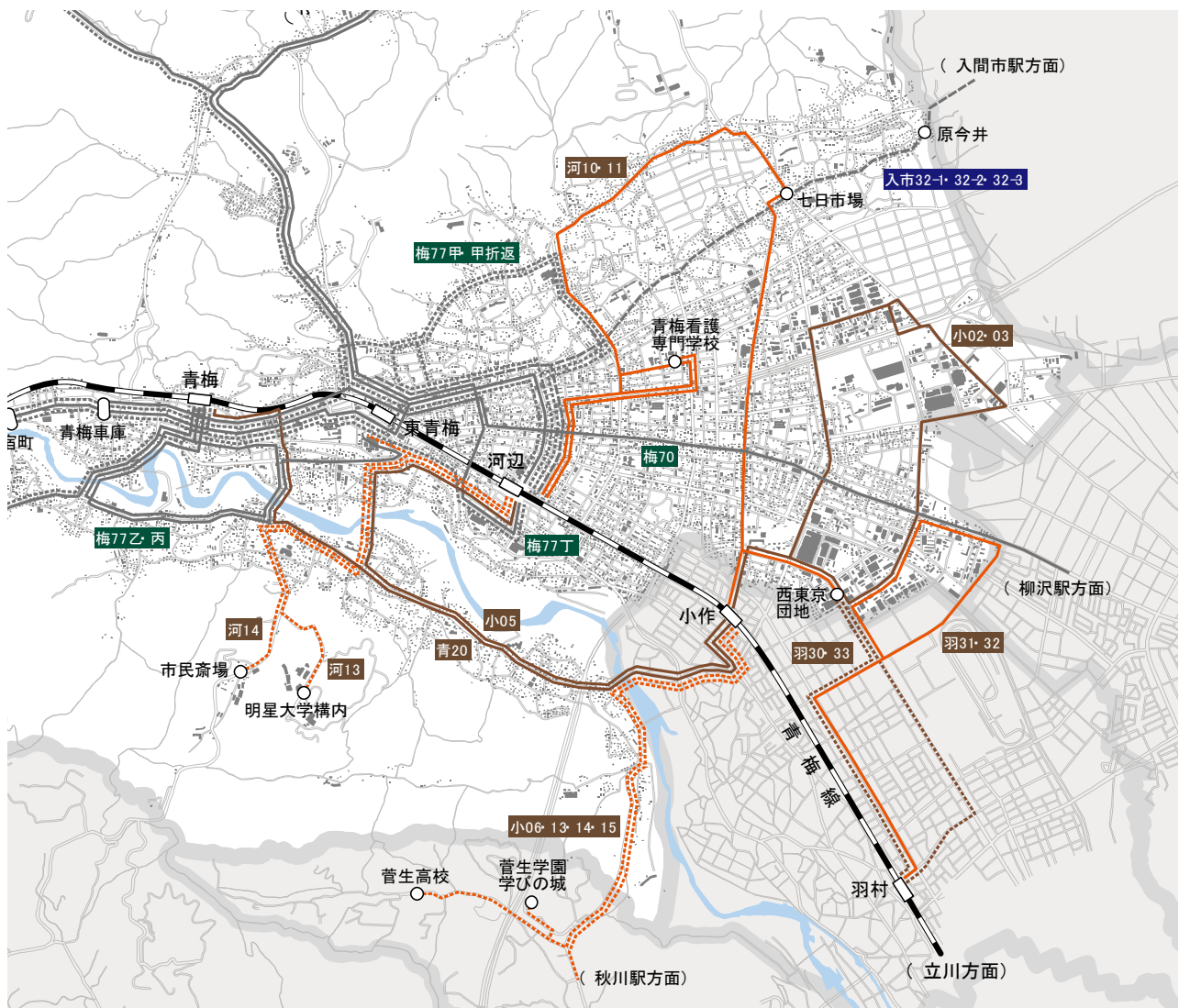
- 都営バスの路線では、運行距離の長い梅 70 で、定時性やバス待ち環境についての不満度が高くなっている。
- また、梅 77 乙・丙・丁で、運行本数（平日）やバス待ち環境についての不満度が高くなっている。
- 梅 76 丙や梅 77 甲・甲折返については、一定のサービスレベルが確保されていることから、不満度は低くなっている。

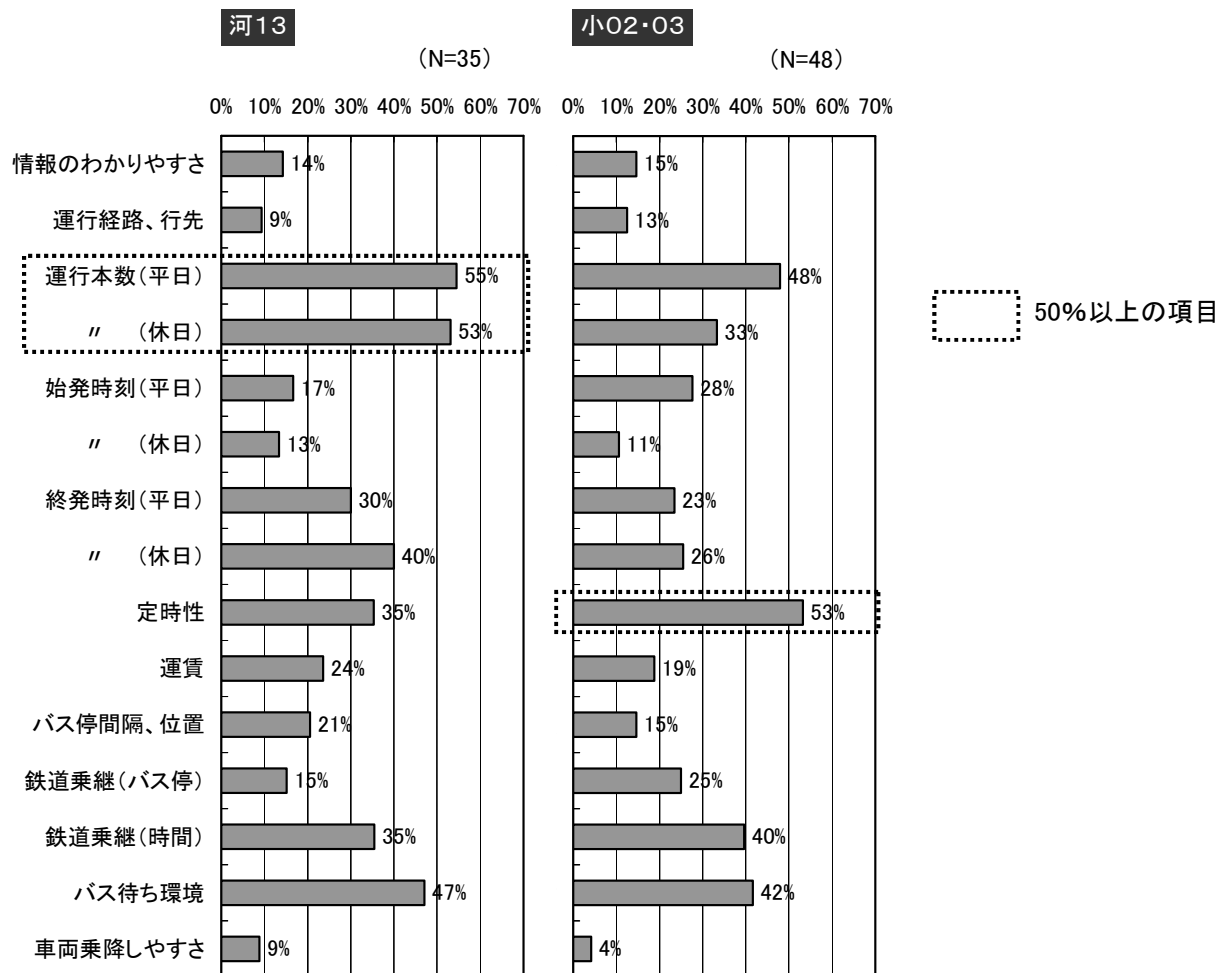
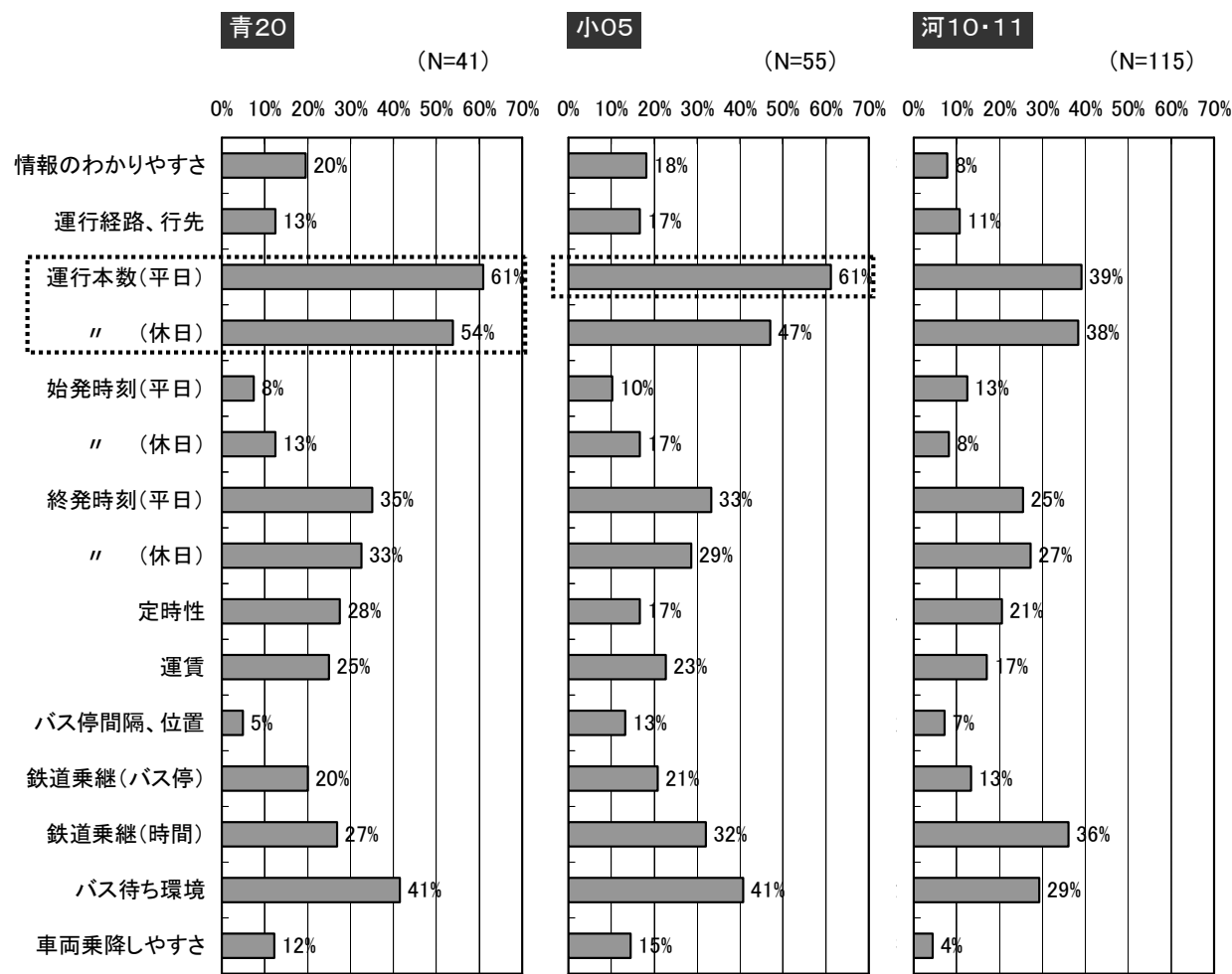
50%以上の項目



2) 西東京バス

- 青 20、小 05、河 13 で、運行本数（平日）に対する不満度が高くなっている。
- 小 02・03 は定時性の不満度が高くなっている。

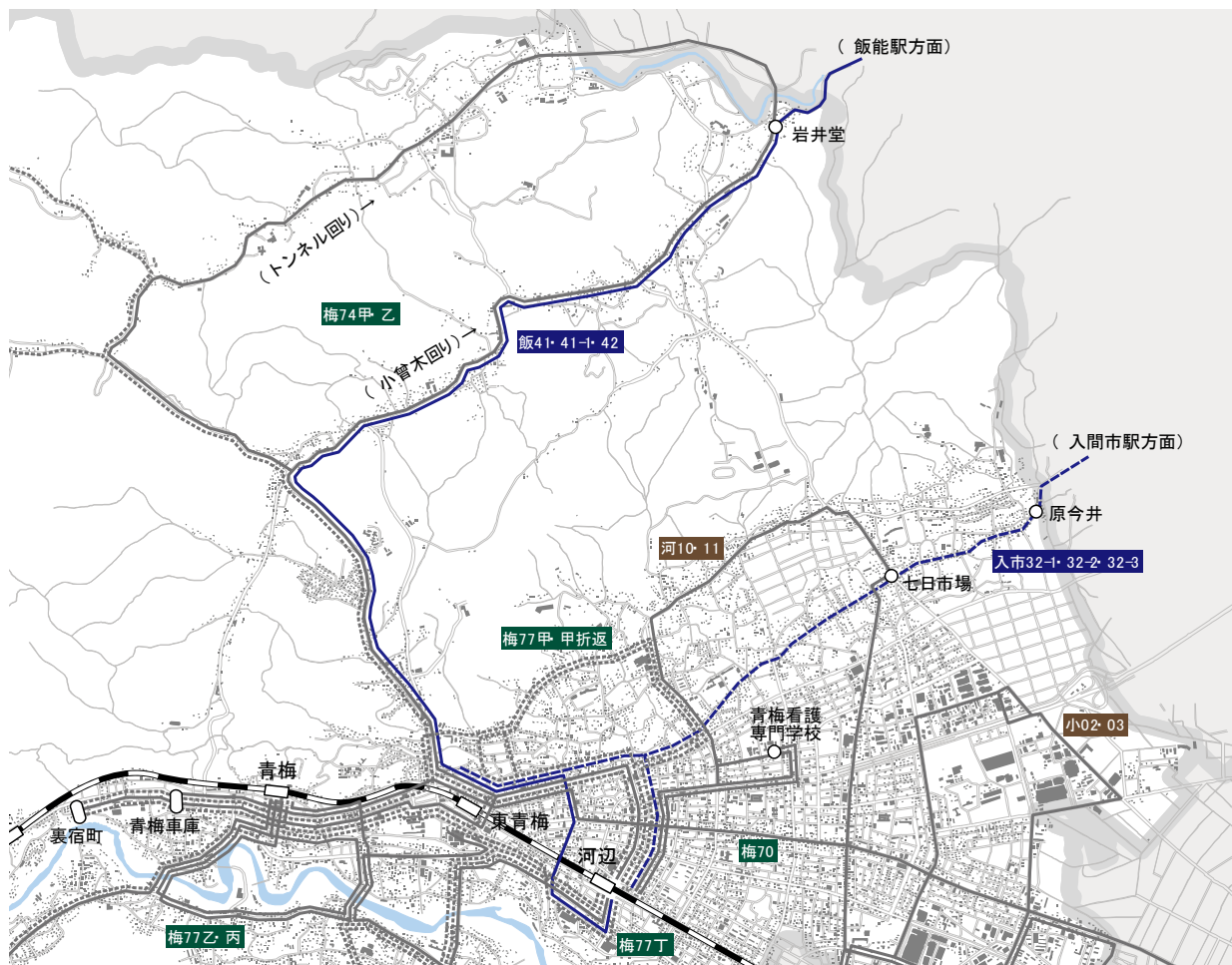
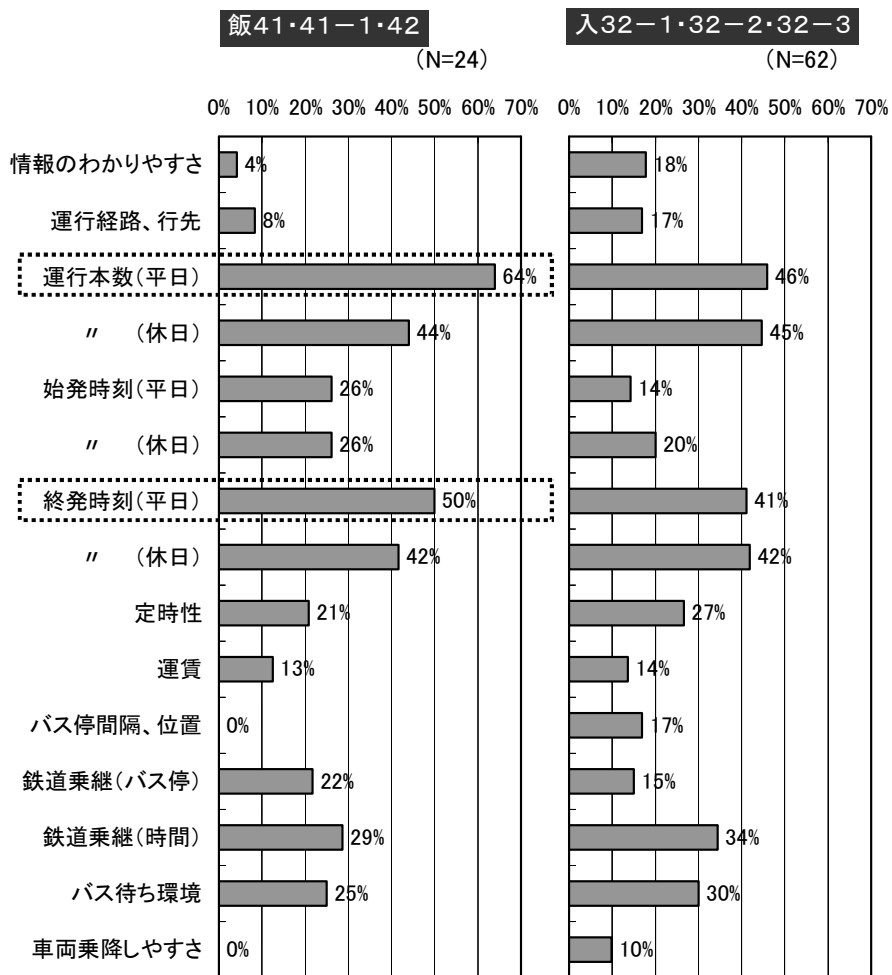




3) 西武バス

- 飯 41 は運行本数(平日)、
終発時刻(平日)の不満
度が高くなっている。

50%以上の項目

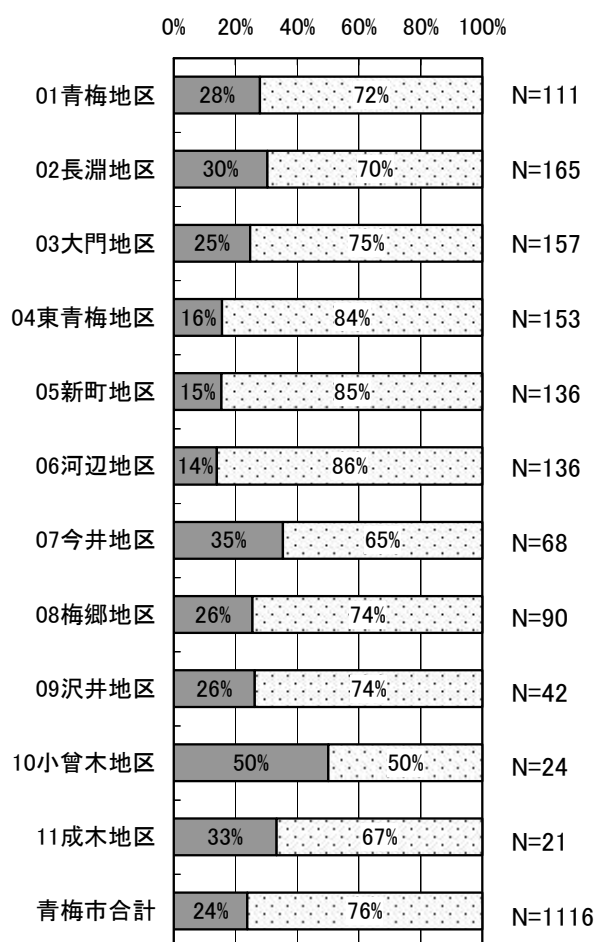


2-4 市民の移動ニーズと公共交通サービスの不適合(Q3)

(1)外出時の移動で困っている人はいらるか

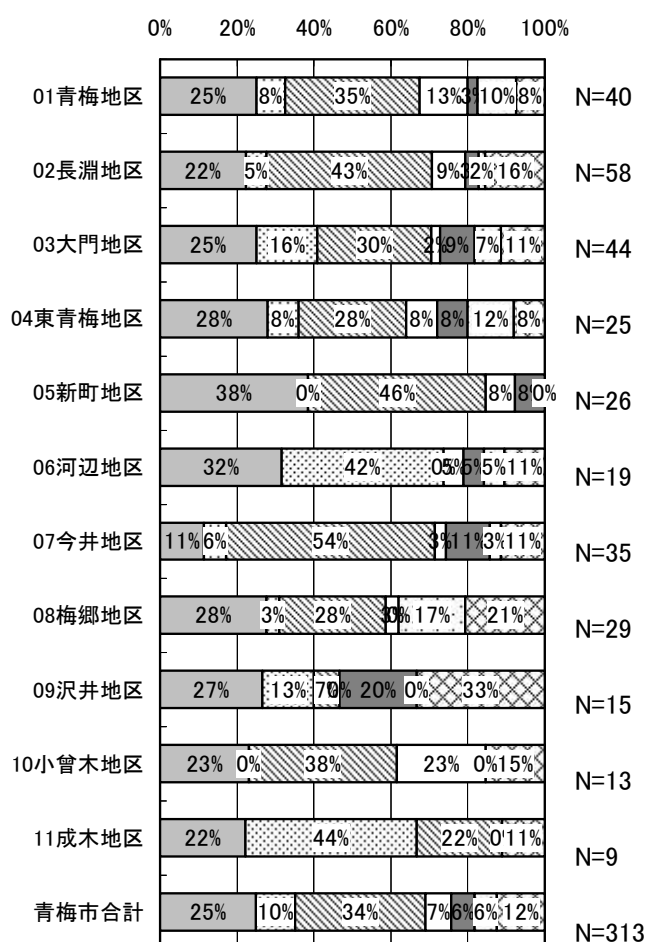
- 外出時の移動で困っている人がいる世帯の割合は、青梅市全体で 24%となっており、長淵地区、今井地区、小曾木地区、成木地区の市街地縁辺部や中山間地域で 30%以上となっている。
- 移動に不便を感じる人のうち、交通手段がない人(1と2)は青梅市全体で 35%見られる。
- 交通手段がない人は、公共交通にカバーされていないエリアで多く分布していると考えられ、公共交通サービスと移動ニーズの不適合が生じている。

図 移動不便者がいる世帯の割合

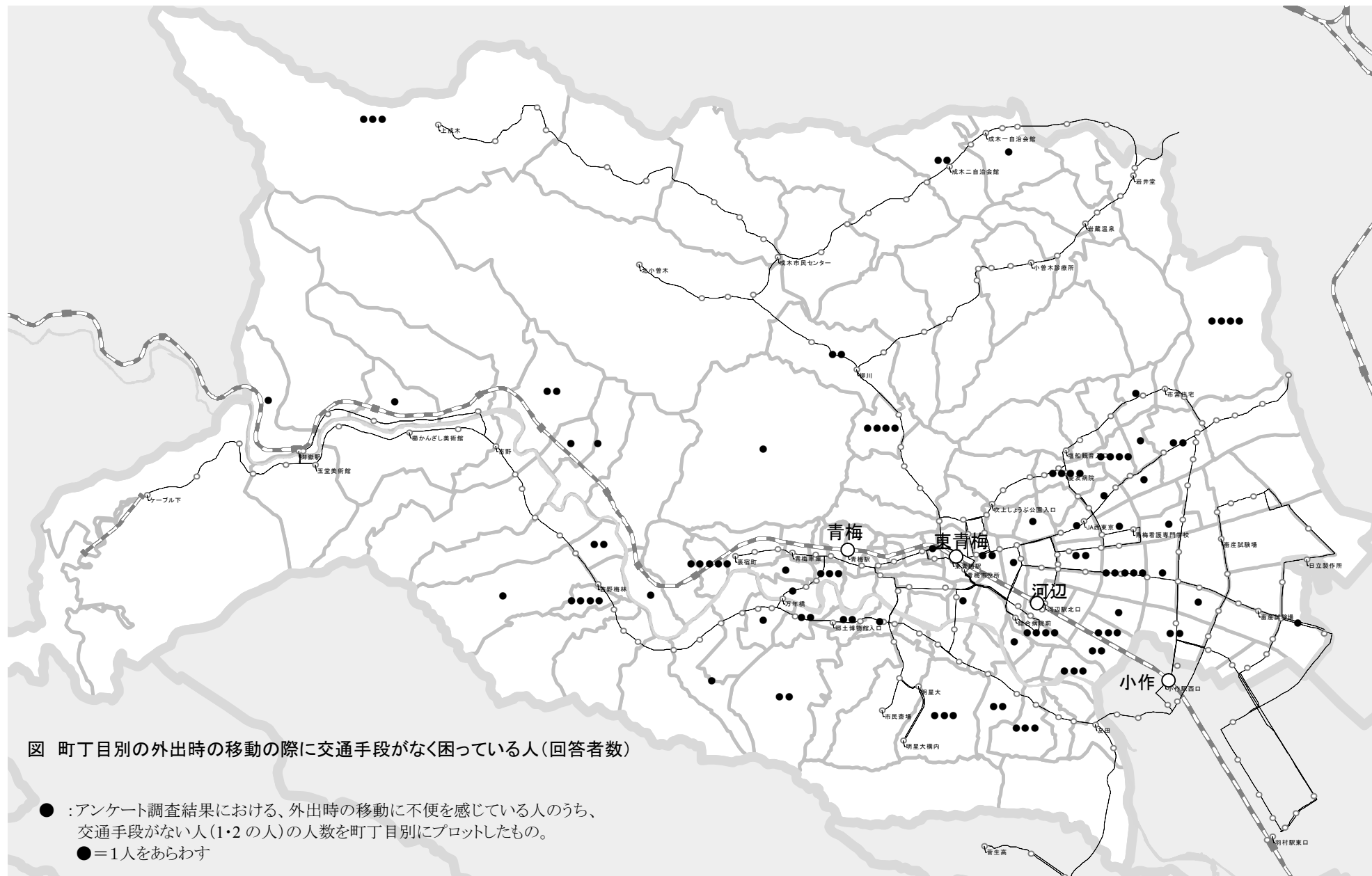


■ 移動不便者がいる世帯 □ 移動不便者がいない世帯

図 移動に不便を感じる理由



- 1) 交通手段がなく、徒歩や自転車利用は大変だから
- 2) 交通手段がなく、送迎やタクシーが必要だから
- 3) 路線バスはあるが、希望の時間に合わない
- 4) 出発地から、乗車バス停までが遠いから
- 5) 降車バス停から、目的地までが遠いから
- 6) 身体に障がいがあり、路線バスを利用しづらい
- 7) その他



(2)外出時の移動で困っているのはどのような人か

- 外出時の移動に関して困ったり不便を感じている人は、女性の割合が 66%(青梅市全体)あり、高齢になるほど割合が大きくなる。
- 職業別には無職と専業主婦等の割合が大きく、不便を感じる移動の目的は買物・病院、不便を感じる移動の頻度は週1～2日以下の割合が大きい。

図 移動で不便を感じている人(性別)

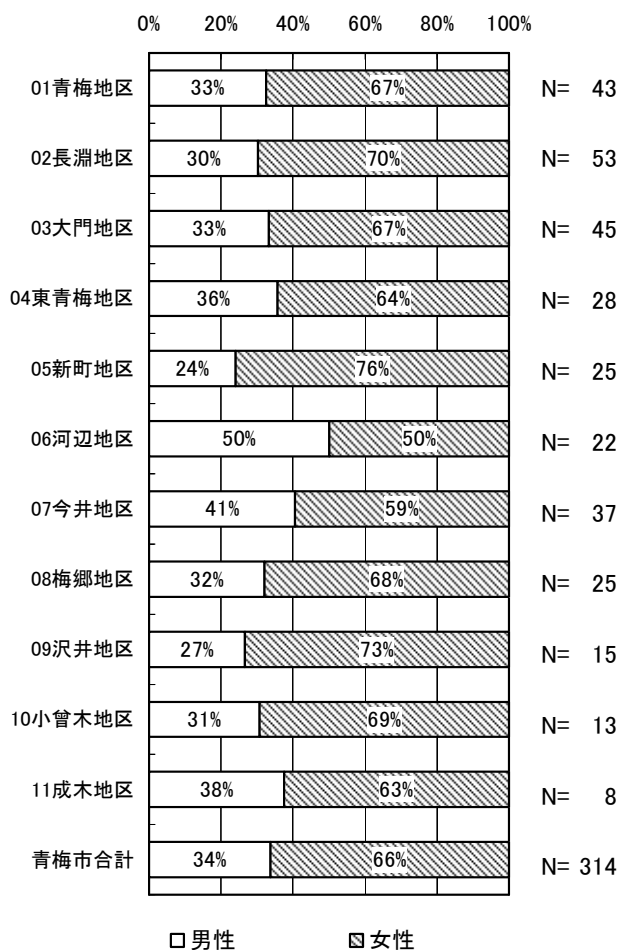
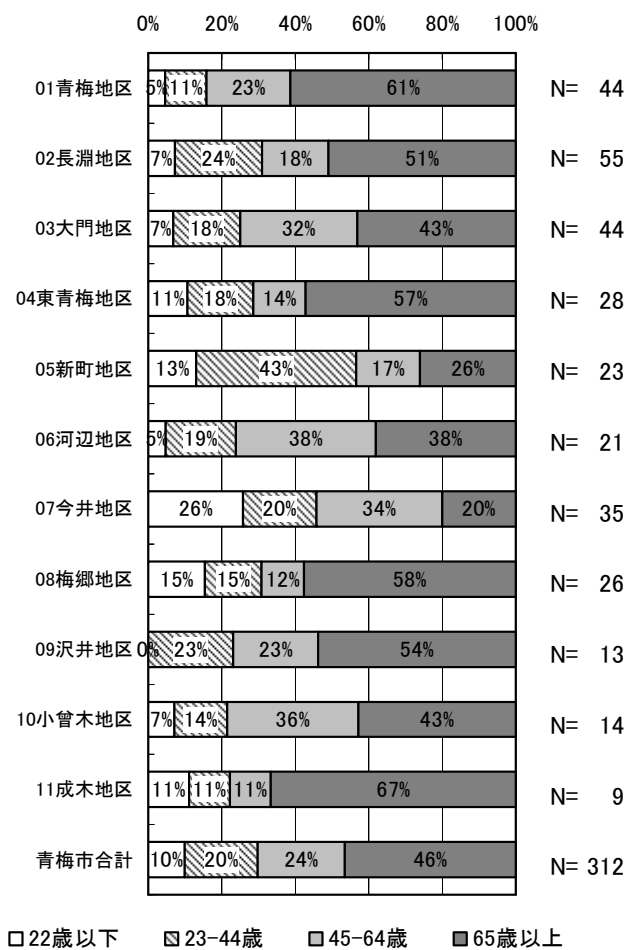


図 移動で不便を感じている人(年齢)



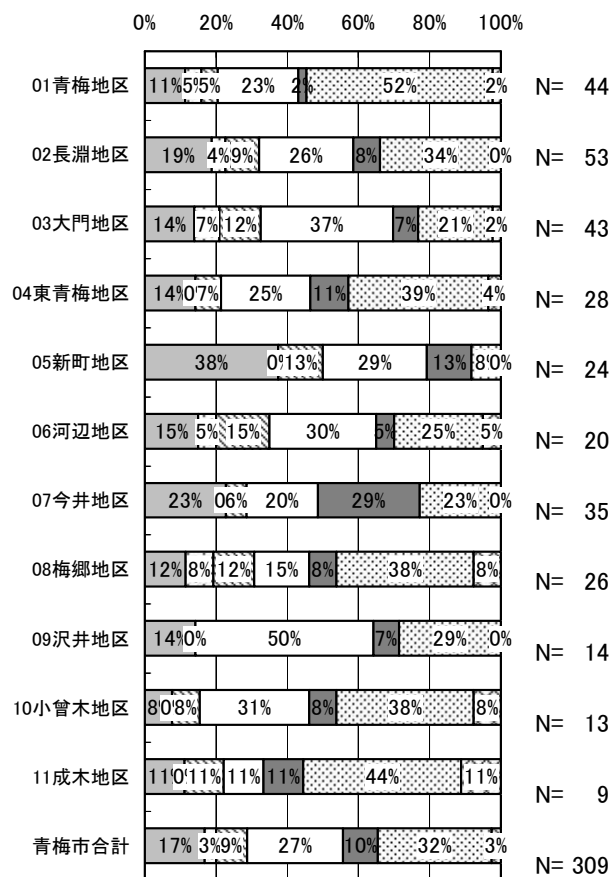
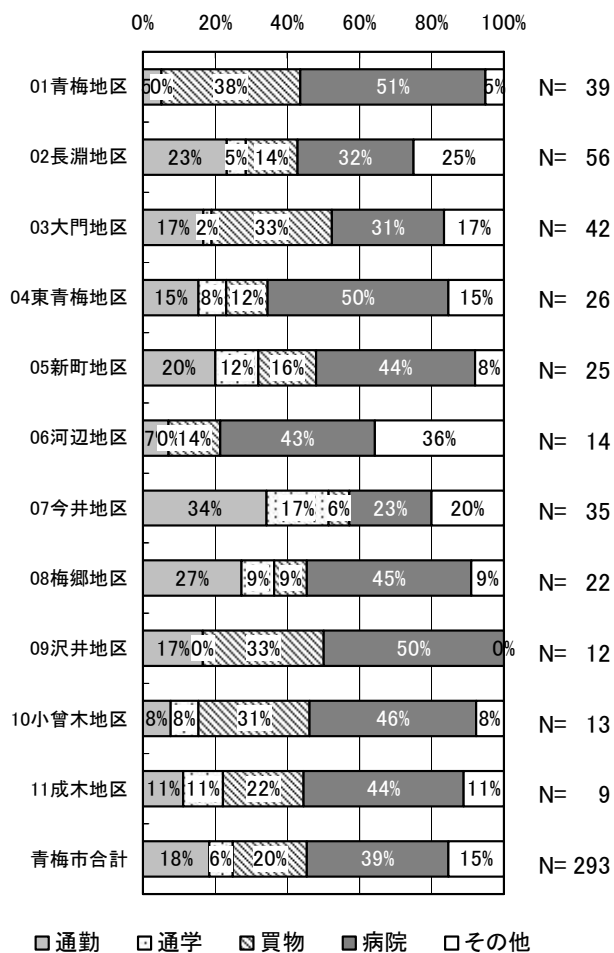


図 移動で不便を感じている人(職業)

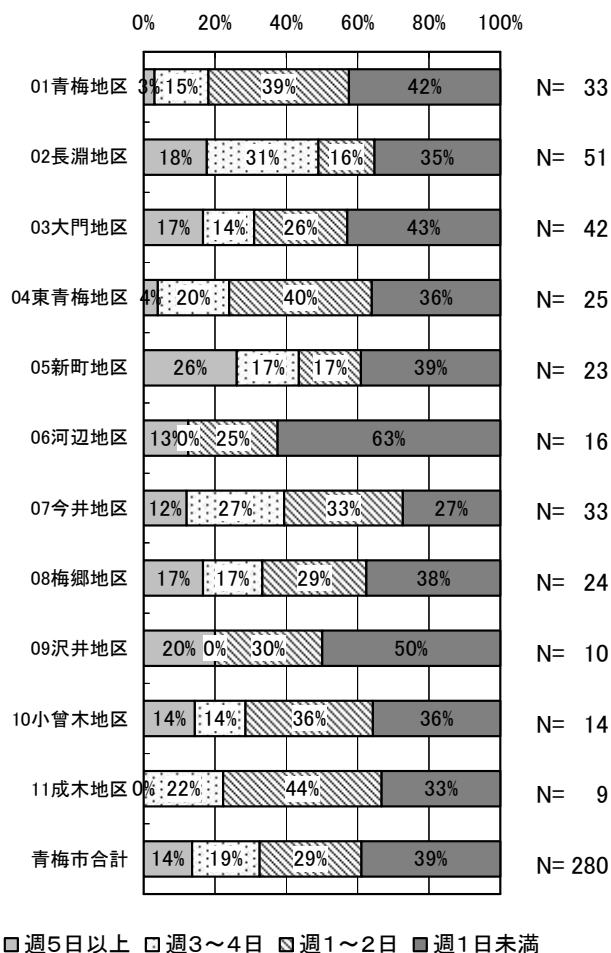
- 会社員等
- 自営業
- ▨ パート、アルバイト
- 専業主婦等
- 学生等
- ▤ 無職
- ▦ その他

図 不便を感じる移動の目的



- 通勤
- 通学
- ▨ 買物
- 病院
- その他

図 不便を感じる移動の頻度



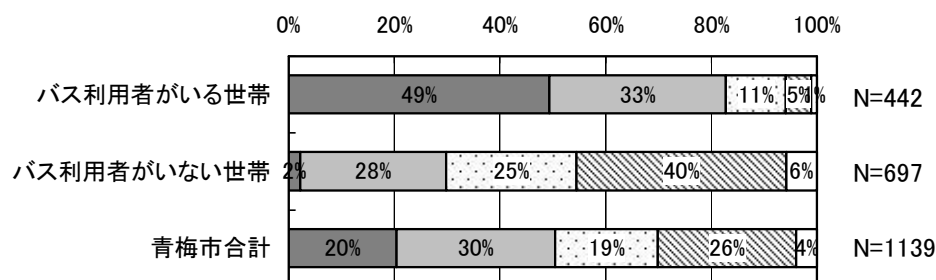
- 週5日以上
- 週3~4日
- ▨ 週1~2日
- 週1日未満

2-5 路線バスの今後の維持・継続に関する市民の意向(Q4)

(1) バス路線に対して市民は必要性を感じているのか

- バス利用者がいる世帯は「日常生活で必要」や「たまに必要」という回答が多いが、バス利用者がいない世帯は「必要な人に必要」「将来必要」「たまに必要」が多くなっている。

図 路線バスの必要性

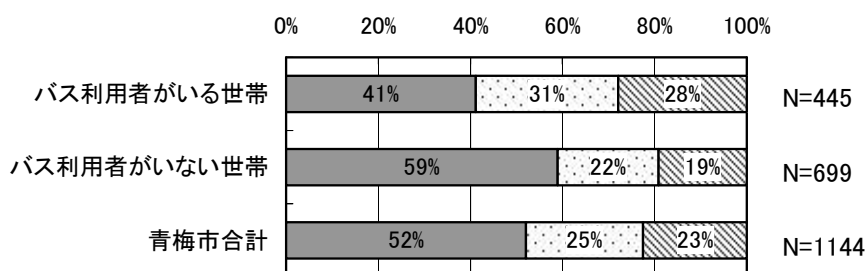


- 家族の日常生活には、なくてはならない交通手段である
- 普段は利用していないが、たまに必要ときがないと困る
- 現在は必要ないが、将来クルマを運転できなくなったときがないと困る
- ▣ 自分の世帯には直接必要ないが、駅から遠い人やクルマのない人には必要である
- あまり必要性を感じない

(2) 公共負担に関してどの程度知られているのか

- バス利用者がいる世帯は、バス利用者がいない世帯より、路線バスの赤字や公共負担に関して認識している割合が高い。

図 公共負担に関する認知度

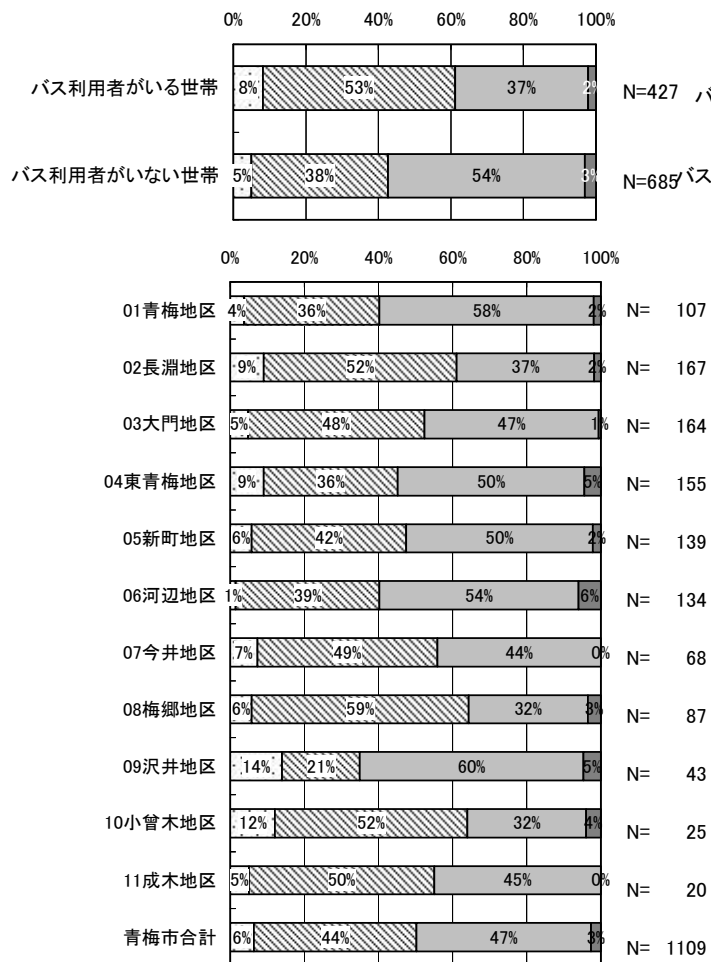


- 知らなかった
- 路線バスの赤字は知っているが、赤字への補助は知らなかった
- ▣ 知っていた

(3) 公共負担に関して市民はどうしていくべきと考えているか

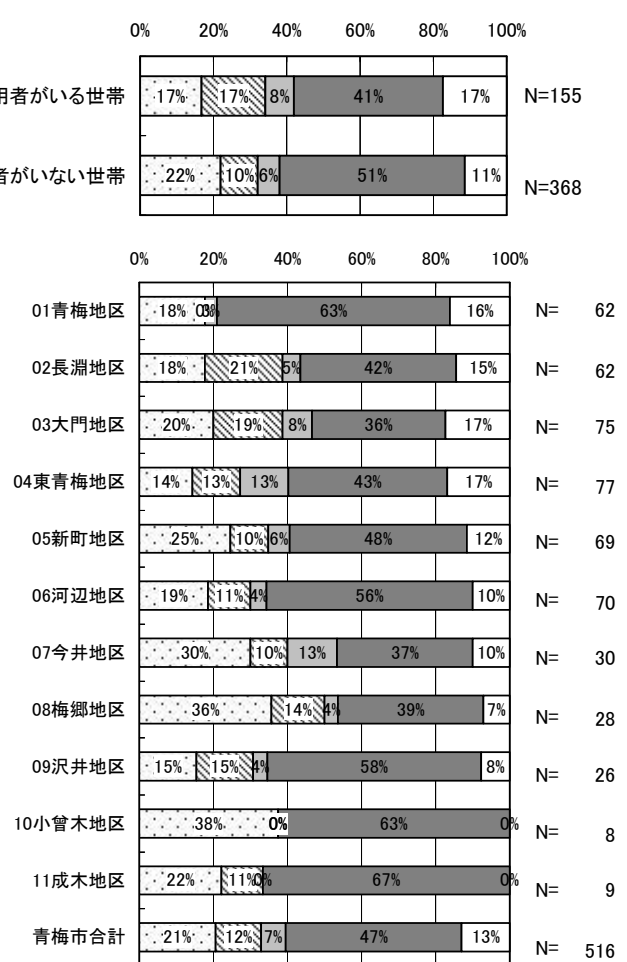
- バス利用者がいる世帯では「現状維持」が53%、バス利用者がいない世帯では「現在より減らすべき」が54%と、バス利用世帯と非利用世帯で違いが見られる。

図 公共負担についてどのように思うか



- さらに公共負担を増やし、路線バスを改善していくべき
- ▣ 公共負担をこのまま継続して、路線バスを維持していくべき
- 公共負担は必要だが、現在の補助額は高いと思うので、減らすべき
- 路線バスへの赤字補助は必要ない、廃止となってもやむを得ない

図 公共負担を減らすためにどうしたらよいか

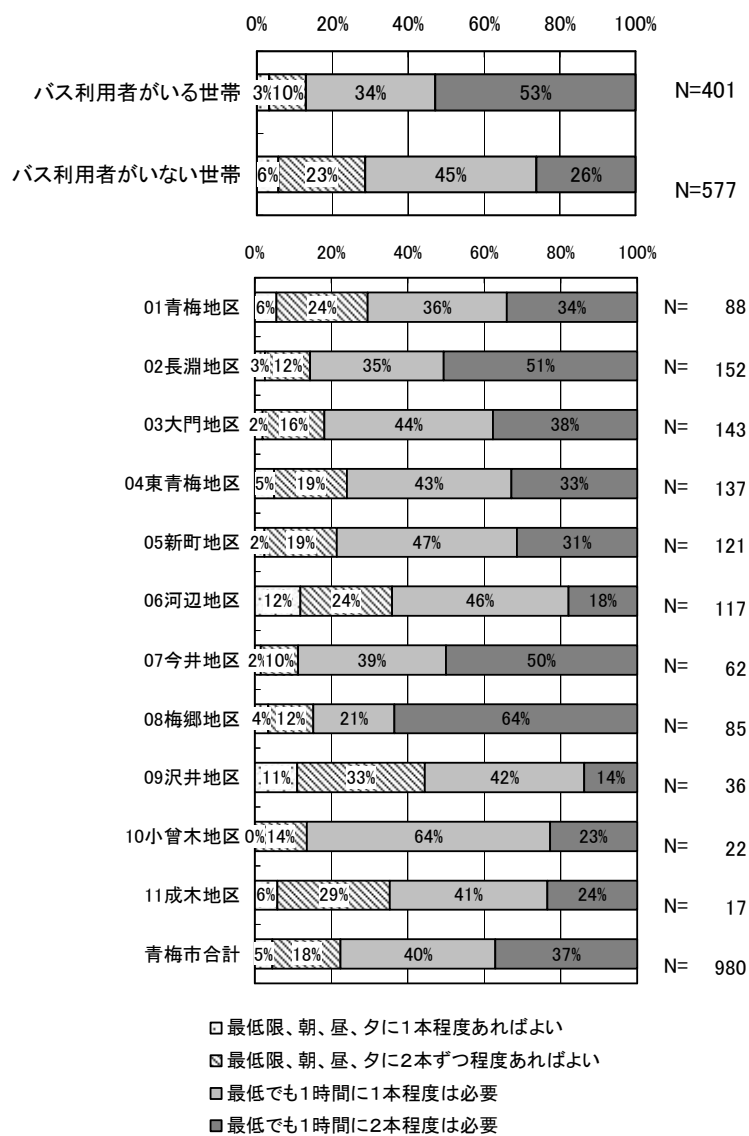


- 運行本数を減らすなどして、運行経費を削減する
- ▣ バス利用者を増やすなどして、運賃収入を増やす
- 運賃を値上げて、運賃収入を増やす
- 路線バスよりも、公共負担の小さい交通手段や方法に切り替える
- その他

(4) 必要最低限のバスサービスレベルはどの程度か

- バス利用者がいる世帯では「1時間に2本程度」の割合が高いが、バス利用者がいない世帯では「1時間に1本程度」の割合が高い。

図 必要最低限のバスサービスレベル



2-6 自由意見

- 市民意向調査の自由意見は、「新規バス交通の導入」「現状のバスサービス」「現状のバス路線の維持」に関する意見が同程度で多い。
- 「新規バス交通の導入」については、コミュニティバスや小型車両によるきめ細かい運行を望む声が多い。
- 「現状のバスサービス」については、運行本数や終バス延長を望む声が多い。
- 「現状のバス路線の維持」については、現状維持や小型化による経費節減を望む声が多い。

表 自由意見の分類集計結果

大分類	小分類	意見数	
1. 新規バス交通の導入について	市営バス、コミュニティバス導入希望	113	222
	主要施設を巡回する運行	27	
	小型車両できめ細かい運行	58	
	ワンコイン	11	
	市営バス、コミュニティバス導入反対	3	
	その他	10	
2. 現状のバスサービスについて	運行本数、終バスの延長	105	230
	運行ルート、バス停位置	30	
	運賃	8	
	定時性	7	
	鉄道・バスとの乗継ぎ	18	
	バス待ち環境	18	
	都営バスと西武バスの競合区間	12	
	その他	32	
3. 現状のバス路線の維持について	現在必要／現状維持	56	230
	将来必要	30	
	廃止／減便	20	
	値上げ、受益者負担	12	
	利用促進、経費削減	20	
	車両を小型化	54	
	その他	38	
4. その他の移動手段について	全般	2	47
	鉄道	9	
	自動車	11	
	自転車	4	
	徒歩	2	
	福祉交通	3	
	その他	16	
5. その他について	市への要望	13	44
	その他	31	
6. 無効	不明／意見なし	13	13
合計		786	786

3 青梅市の現状と市民意向からみた課題

(1) 公共交通空白地域や交通不便者への対応

- 市民意向調査では、外出時の移動で不便を感じている人が市内に24%ほどおり、それらの人は高齢者が多く、不便を感じている移動目的は買物・病院であるが、その頻度は週1～2日以下と低い。
- 外出時の移動で不便を感じている人のうち特に、交通手段がなくて困っている人が35%あり、その人たちの居住地は、鉄道駅やバス停から一定距離以上離れている公共交通空白地域に重なる部分が多い。また、その人たちの目的地としては、病院や駅周辺・商業地など、多様に分布している。
- 市内の地形をみると、青梅線北側の市街地部についてはなだらかな地形であるが、河辺駅や東青梅駅南側の多摩川沿いの地区については、立川崖線により急峻な地形となっており、高低差が10～20m生じている。このため、崖下の地区は河辺駅や東青梅駅からの水平距離は500m程度であるが、アクセスしづらい地区となっている。
- 今後の更なる高齢化社会の進展が予想され、高齢者のバス交通への依存度は大きいことから、高齢者の日常生活上の移動を確保するため、これらの公共交通へのアクセスが困難な地域（公共交通空白地域）における低密度・低頻度な交通への対応が課題である。

図 外出時の移動の際に困っている人

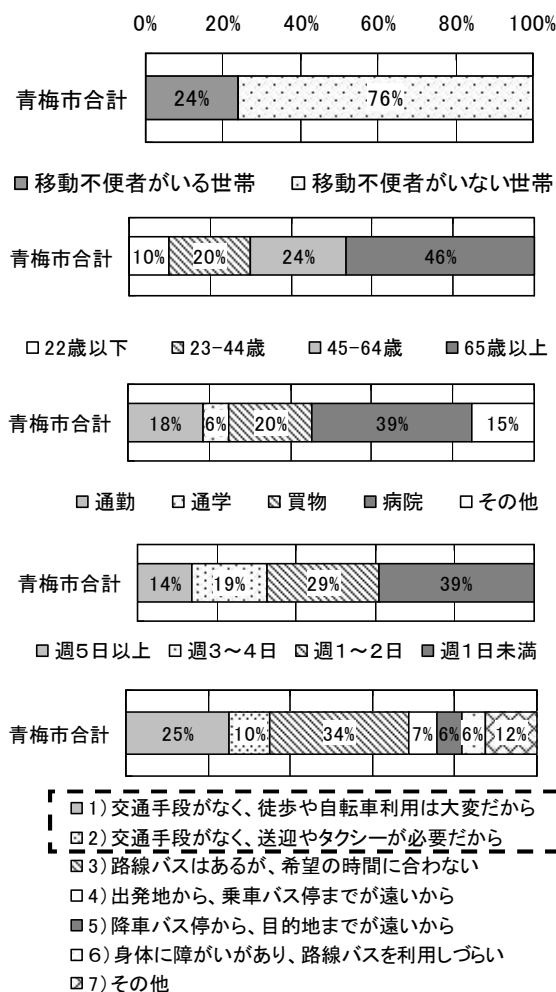
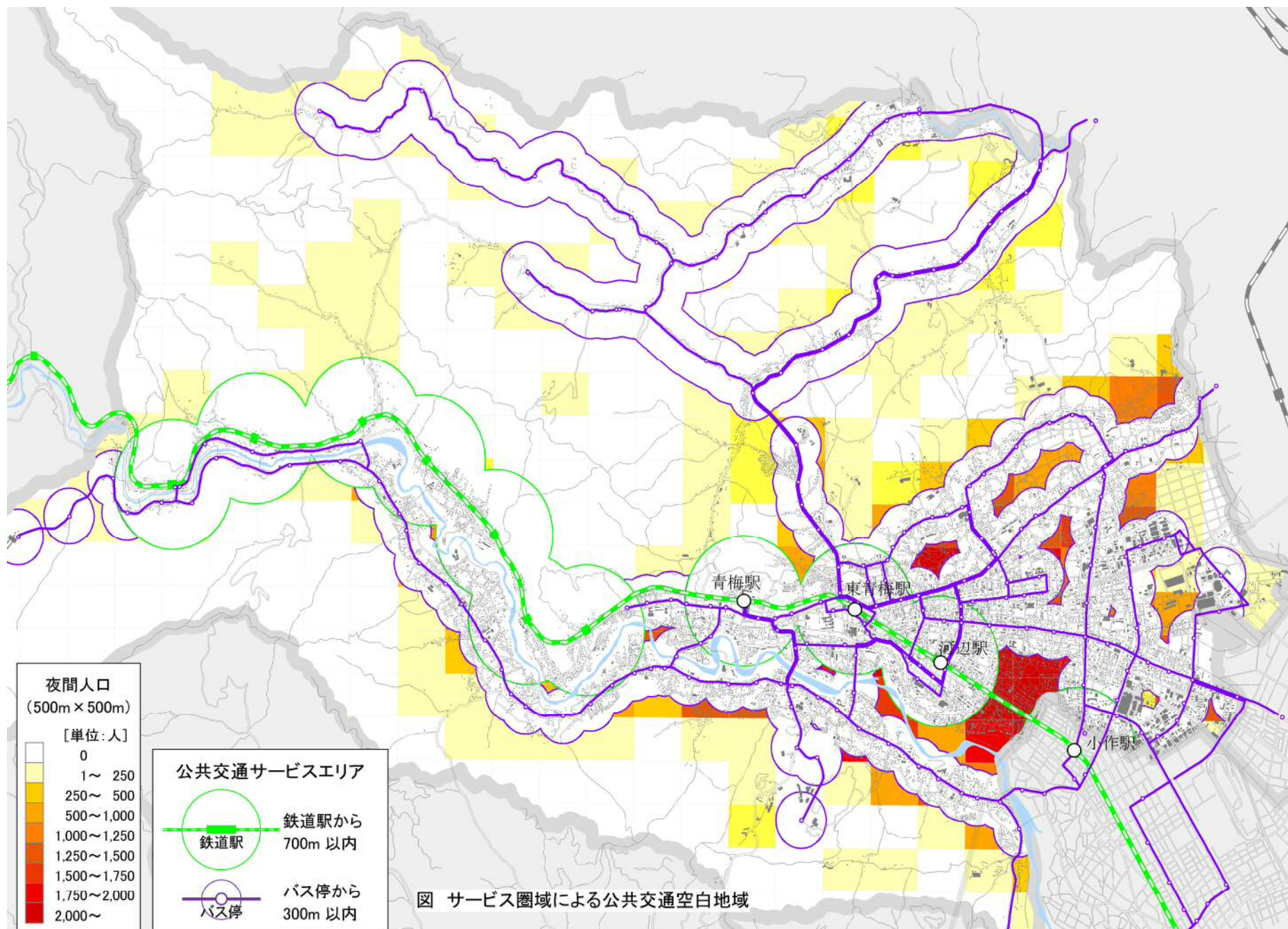


表 外出時の移動の際に交通手段がなく困っている人の目的地

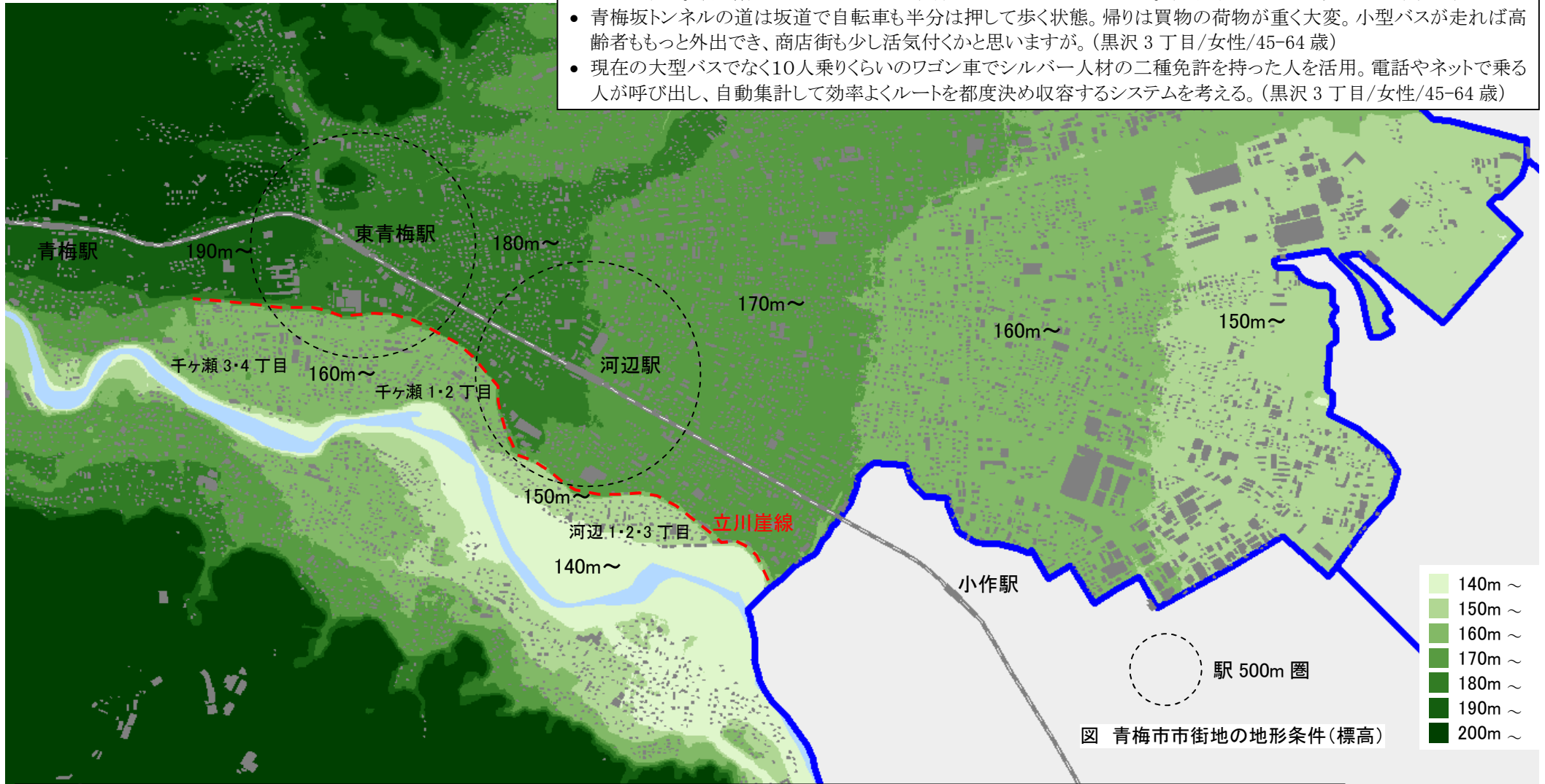
分類	目的地	回答数
病院	医者と買物	1
	下奥多摩医院	2
	眼科	1
	眼科、歯科	1
	眼科医院	1
	青梅整形外科	1
	総合病院	1
	大河原森本医院、小林接骨院	1
	通院	1
	東青梅整形	1
	病院	10
	病院、買物	1
	病院、買物、他、河辺駅	1
	病院・市役所・体育館	1
小計		24
駅、駅周辺、都心方面	駅	5
	羽村	1
	小作	2
	小作駅	3
	小作駅付近	1
	河辺	3
	河辺・長淵	1
	河辺駅	3
	東青梅	2
	東青梅、河辺	1
	東青梅駅	1
	青梅	1
	青梅駅周辺	1
	石神前	2
	石神前駅	1
	立川	2
	都内へ	1
	東京駅	1
小計		32
商業施設	カインズホーム・新町そば	1
	大型のホームセンター	1
	吉野(スーパー)	1
	千ヶ瀬町、マルフジ	2
	スーパー・野上町	1
	入間三井アウトレット	1
	小計	7
その他	塩船、市役所、上成木、富岡等	49





【自由意見より抜粋】

- 宮ノ平駅は近いのですが、階段が往復150段もあり大変です。以前はバスがあったのですが、なぜなくなってしまったのですか。駅の階段が登れなくなった場合はタクシーしかありません。(日向和田 2 丁目/女性/75 歳以上)
- 青梅坂トンネルの道は坂道で自転車も半分は押して歩く状態。帰りは買物の荷物が重く大変。小型バスが走れば高齢者ももっと外出でき、商店街も少し活気付くかと思いますが。(黒沢 3 丁目/女性/45-64 歳)
- 現在の大型バスでなく10人乗りくらいのワゴン車でシルバー人材の二種免許を持った人を活用。電話やネットで乗る人が呼び出し、自動集計して効率よくルートを都度決め収容するシステムを考える。(黒沢 3 丁目/女性/45-64 歳)



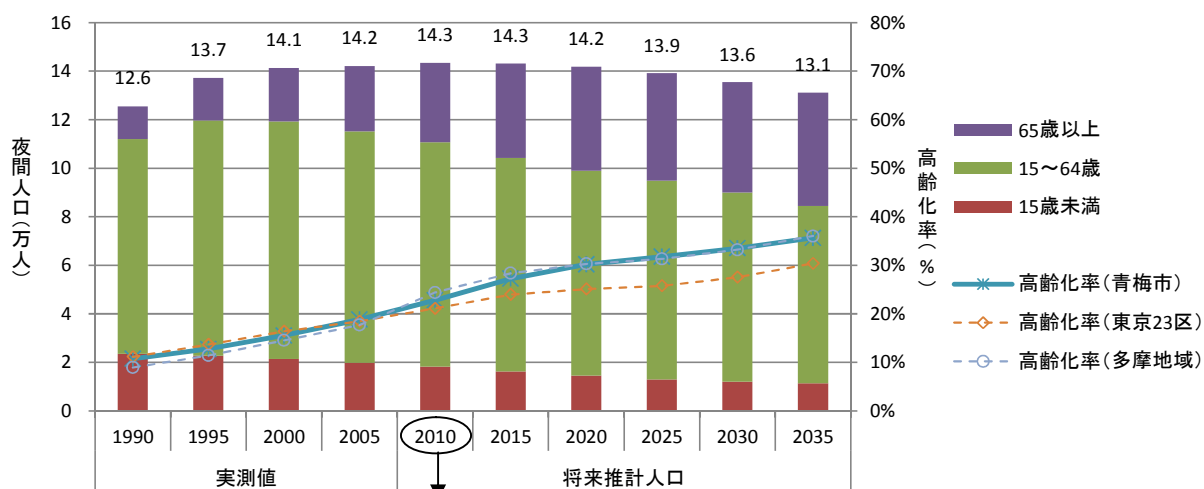
【自由意見より抜粋】

- 千ヶ瀬はどうしても坂道を使うため、老人が大変なので、河辺駅・東青梅駅方面に行くバスがあれば大変助かると思います。(千ヶ瀬町 1 丁目/65～74 歳/女性)
- 道が狭いのに交通量が多い。坂が急で危険。ミニバスなど走ってくれると助かります。(千ヶ瀬町 1 丁目/23～44 歳/女性)
- 河辺南地区のバス路線整備を早めて下さい。(河辺町 3 丁目/75 歳以上/男性)
- 買物、医療機関の中心となる河辺、東青梅、青梅各駅周辺へのアクセスを充実させて下さい。切に願います。(河辺町 1 丁目/75 歳以上/女性)

(2) バス利用の促進

- 青梅市の人口は、現在をピークに今後減少することが見込まれ、また一層少子高齢化が進展することが予想されている。少子高齢化、人口減少の進展により、バス利用頻度の高い若年層が減少し、利用頻度の低い高齢層が増加することとなり、バス利用者の減少傾向に加えて、バス路線の経営環境は一層厳しくなることが想定される。
- 市民意向調査では、バスを利用していない世帯でも、「将来クルマに乗れなくなったとき必要」「バスが必要な人のために必要」など、バス路線の必要性は感じているものの、バス路線の経営状況については、半数の世帯は認識していない。また、バスを利用していない世帯は、半数はバスが利用可能な環境にある一方で、最寄りバス停を知らない世帯も22%ある。
- 持続可能な公共交通の確立に向けて、バス交通に関する啓発（経営状況、サービス内容）や利用促進策の実施、不満度・重要度の高い項目のバスサービス改善を図り、現利用者の逸走を防ぐとともに利用を増進、新たな利用者獲得など、バス利用の促進を図っていくことが課題である。

図 青梅市の年齢階層別人口と高齢化率の推移



※平成22年国勢調査では、2010年の人口が13.9万人となり、本推計より急激に人口減少が進展している。
(65歳以上:3.2万人、15～64歳:8.9万人、15歳未満:1.8万人)

出典) 1990-2005 総務省統計局「国勢調査」

2010-2035 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」

図 年齢階層別バス利用頻度

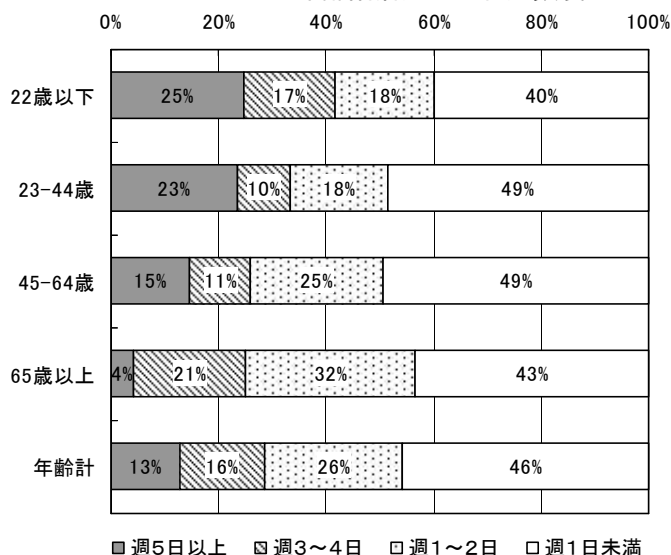


図 都営バス(全体)の輸送人員

資料: 東京都統計年鑑

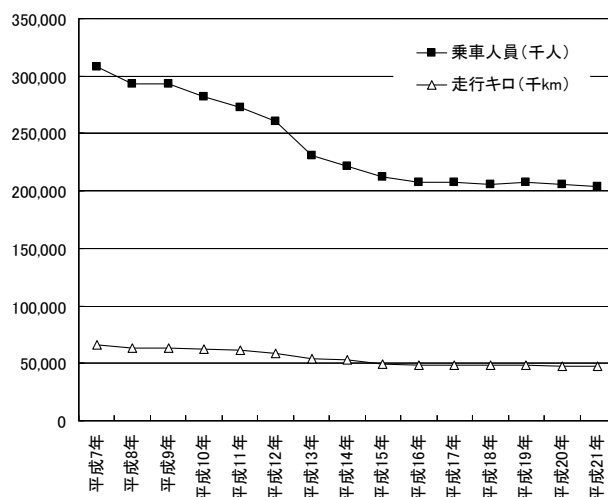
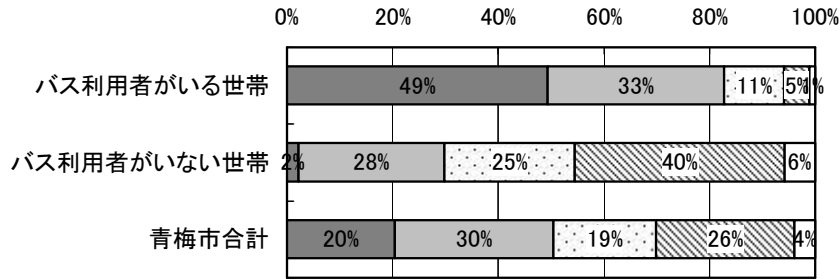
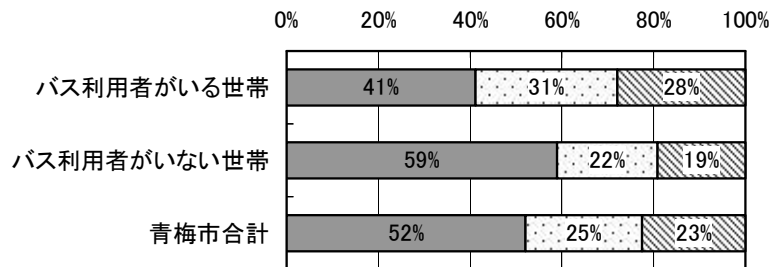


図 路線バスの必要性



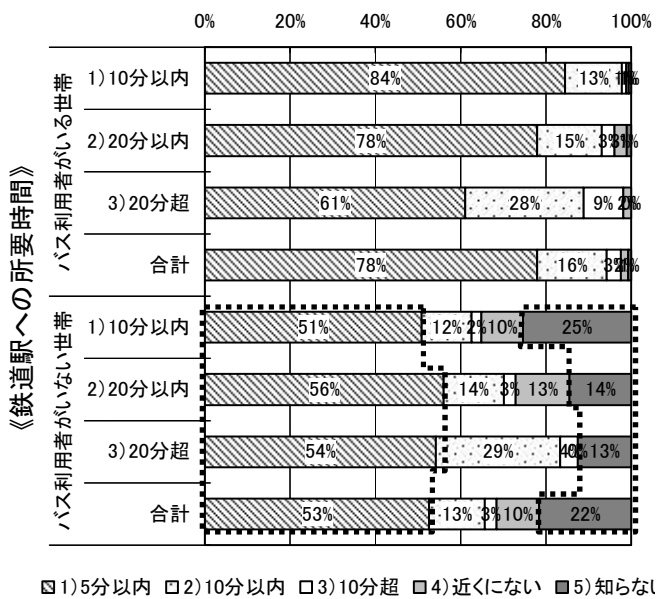
- 家族の日常生活には、なくてはならない交通手段である
- 普段は利用していないが、たまに必要とときにないと困る
- 現在は必要ないが、将来クルマを運転できなくなったときにないと困る
- 自分の世帯には直接必要ないが、駅から遠い人やクルマのない人には必要である
- あまり必要性を感じない

図 公共負担に関する認知度



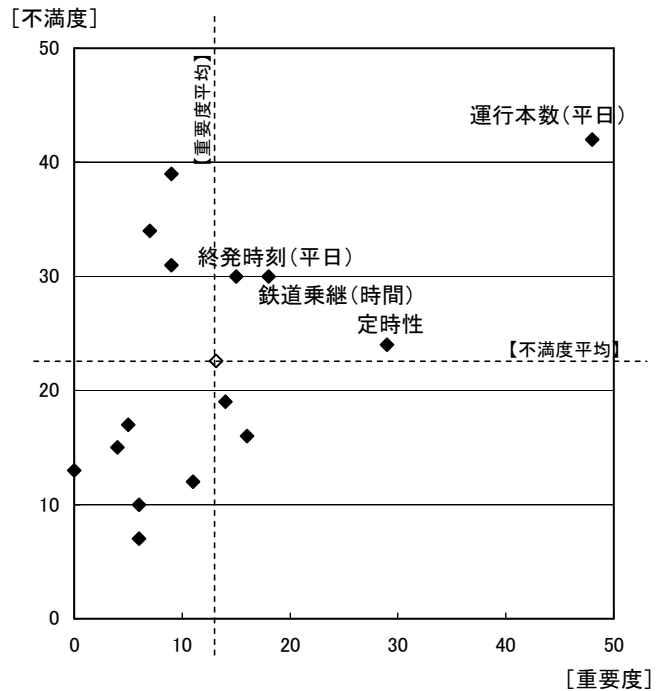
- 知らなかった
- 路線バスの赤字は知っているが、赤字への補助は知らなかった
- 知っていた

図 バス利用有無別バス利用環境



■ 1) 5分以内 □ 2) 10分以内 □ 3) 10分超 □ 4) 近くにない ■ 5) 知らない

図 バスサービスに対する不満度(やや不満+不満)の割合と重要度の割合の分布



【自由意見より抜粋】

- バスがどこを通っているのか、時間は何時なのか、HPを見ることができない者でもわかるような情報がほしいです。(新町 9 丁目/女性/45-64 歳)
- バスを利用したいと思う時がありますが、料金の払い方が分からない不安があります。特に小銭がない時のお釣りのもらい方など…そんな訳で、どうしようもない時タクシーを利用します。もっと気軽にバスを利用したいです。(裏宿町/女性/45-64 歳)
- 以前から河辺駅までバスを利用したいと思っているのですが、路線図がわかりずらく、どのバスに乗ったらよいかわからないのです。もっと見やすく誰が見ても理解できるよう、改善してほしいです。同じように思っている方は少なくないと思います。(東青梅 5 丁目/男性/23-44 歳)
- どのように運行されているのか知らない(わからない)ことも課題のひとつと思います。具体的なニーズと量を把握の上、最もシンプルで分かりやすい、その解決法をさぐると答が出てきそうな気がします。(河辺町 1 丁目/男性/45-64 歳)
- バス路線、バス停(近くにあるスーパー、病院など)を知らないのも、利用するためにも広報などで詳しく周知する必要があるのでは？ただ本数が少ないので利用頻度は低いかもしれませんが。最近の斎場行きの路線は切り抜いて保存してある。(野上町 2 丁目/女性/45-64 歳)
- 小作駅でも羽村駅でも良いからバスにのりたい場合に、新町東のどちら側で待つべきか分かりづらい。逆側の時刻表も置いてほしい。(新町 9 丁目/男性/23-44 歳)
- 各自治会に働き掛けるなどバス利用をもっとアピールしたらどうですか。利用率を UP する方策を考えていくのが必要と思います。(藤橋 2 丁目/男性/65-74 歳)
- もっとPRを上手に、大変難しい問題ですが、「便利だ」と思わない限り、市民の頭に「バス」の意識は強まらないでしょう。またコースなども青梅は広いので相当良く考えないと(乗り換えなど)利用度は高まりません。また、バス停の作りも多いに左右します。2月8月などの対策、もうひとつ重要な要素は、次のバスが今どこを走っているのかなど情報がなく、ただ待っているのは不安(その時刻になっても来ないとき、行ってしまったのか、まだ来ていないのかなど…)このあたりを解決しないと利用者が増加することは見込めないと思います。他にも自転車載せられるとか、バギーもOKとかいろいろなニーズにどうこたえられるか…そのあたり工夫が必要(河辺町/男性/65-74 歳)
- 道の混雑によるのは分かるのですが、定刻通りでないと電車との乗り継ぎもあるし、遅れている時に、後どの位で到着するのか(もしくは早く着いた時、人がいなくて行ってしまったetc)分かるようにしてくれると有り難いです。(今寺 2 丁目/女性/23-44 歳)
- バスの最終が前より早くなり乗る事ができるバスを利用しなくなってしまった。最終をもっと出して欲しい。JR とちゃんとリンクして欲しい。電車から降りたらバスが出てしまう事が多い。(友田町 4 丁目/女性/23-44 歳)
- 小作駅発のバスは電車の到着との接続を考慮して発車してほしい青梅線が1〜2分遅れて目の前で発車してしまうことが有った。次のバスまで 20〜30 分待たねばならない。サービス向上の為に簡単にできる事と思う。(新町 5 丁目/男性/45-64 歳)
- 都バスの駒木野循環は時刻通りに来たことがない。利用客が少ないのはよく分かっているので小型バスにするなど考えていただきたい。外回りも内回りも終着が青梅駅なのでどちらか一本化していただけたらわかりやすい。かんぼの宿に泊まった方たちがわかりにくそうにしているし実際よく聞かれるので。(駒木町 2 丁目/女性/45-64 歳)
- 昼間帯は現在のままで満足しておりますが、終バスの運行時間があまりに早く帰宅が遅くなる時等は利用出来ず自家用車またはタクシーを利用しております。22 時 23 時台に 1 時間に 1 本でも良いですが原今井止まりのバスを運行していただけたら助かります。(今井 2 丁目/女性/23-44 歳)
- 明星大学→河辺駅の区間で総合病院前バス停を大通りでなく病院直前(病院前通り)を通過する経路にできないか。(千ヶ瀬町 2 丁目/男性/45-64 歳)

(3) 公共負担のあり方の検討

- 青梅市では、路線バスに対して年間1億5千万円の公共負担を行っており、多摩地域においても最も高いレベルとなっている。
- 市民意向では、半数は公共負担の継続を望んでいるが、半数は公共負担の削減を望んでおり、その場合の方法は「路線バスよりも公共負担の小さい交通手段・方法に切替」が最も多くなっている。
- このため、利用状況調査や市民意向調査の結果等を見ながら、公共負担にかかる系統について利用状況や採算性を検証し、地域の状況に適した公共交通体系のあり方と、それに対する適切な公共負担のあり方について検討していく必要がある。

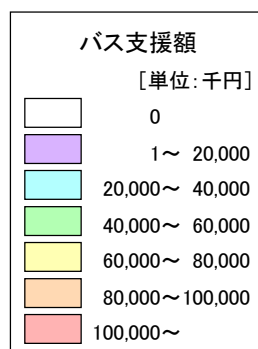
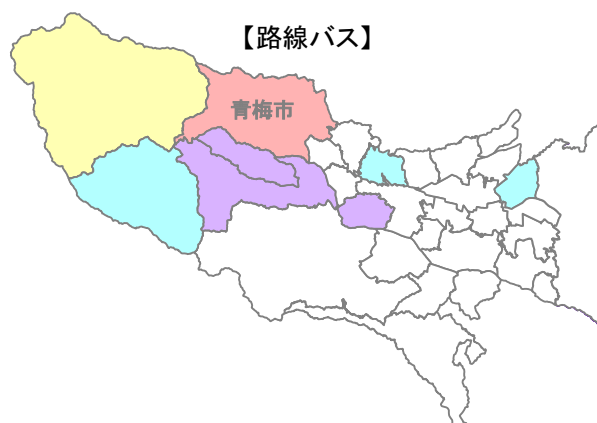
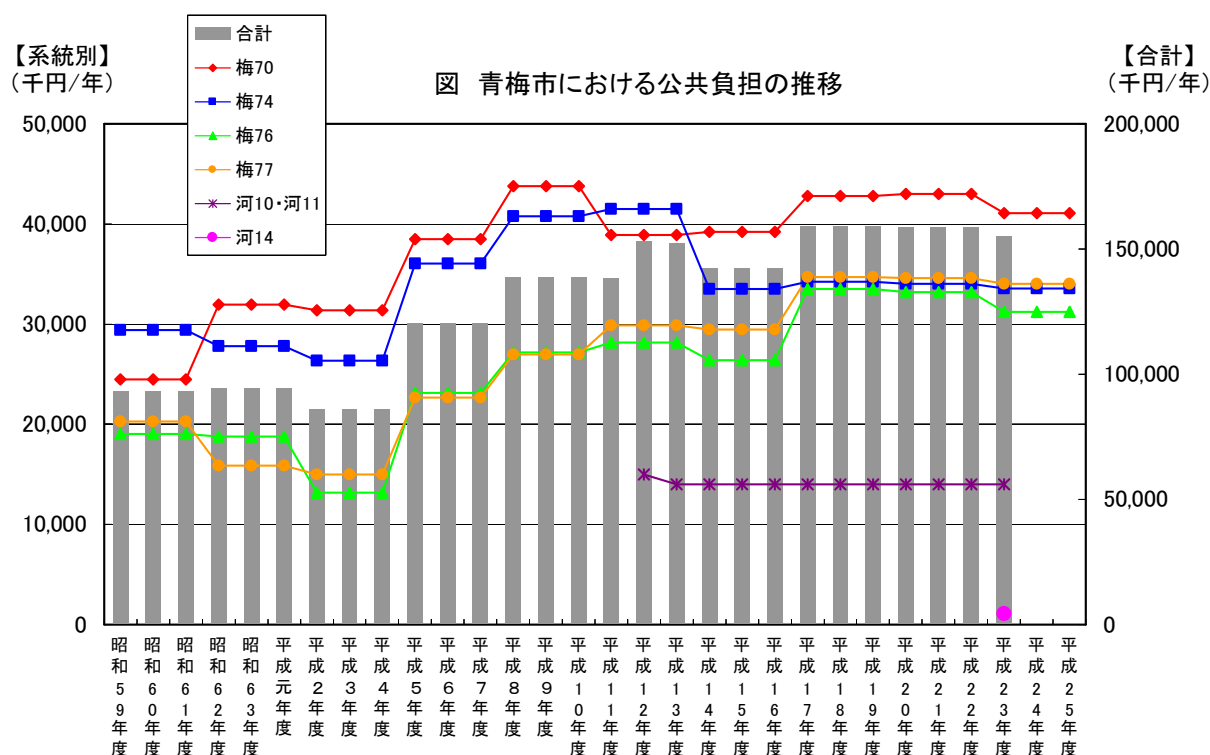


図 公共負担についてどのように思うか

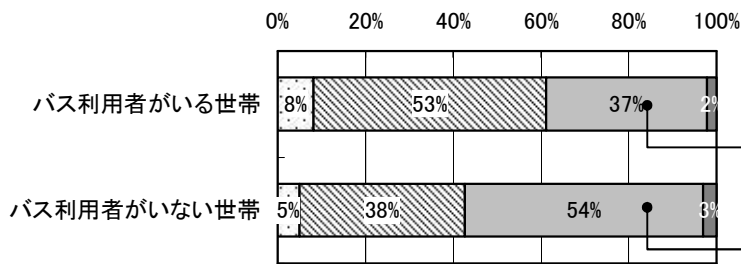
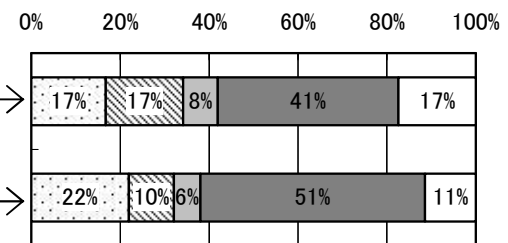


図 公共負担を減らすためにどうしたらよいか



- ☐ さらに公共負担を増やし、路線バスを改善していくべき
- ☐ 公共負担をこのまま継続して、路線バスを維持していくべき
- ☐ 公共負担は必要だが、現在の補助額は高いと思うので、減らすべき
- ☐ 路線バスへの赤字補助は必要ない、廃止となってもやむを得ない

- ☐ 運行本数を減らすなどして、運行経費を削減する
- ☐ バス利用者を増やすなどして、運賃収入を増やす
- ☐ 運賃を値上げして、運賃収入を増やす
- ☐ 路線バスよりも、公共負担の小さい交通手段や方法に切り替える
- ☐ その他

【自由意見より抜粋】

- 現在、青梅市内の都バスの運行は主に大型バスや中型バスですが、本当に大型バスや中型バスで運行しないと駄目なんですか？ 小型バスやマイクロバスまたはジャンボタクシー形式のバスに切り替えても良い様な気がします。曜日や時間帯によっては空気を運んでいる状態を、よく目にします。大型バスよりかは小型バスのほうが燃費や経費がかからない様な気がします。（師岡町 2 丁目/男性/45-64 歳）
- 最寄駅から遠い地域や増大する高齢者のことを考えると、公的負担が大きくてもなくすことはできないと思う。利用客の少ない地域は、小型バス等維持費を減らす工夫をしてみても…（野上町/女性/23-44 歳）
- 現状維持を望む。市独自でのコミュニティバスを望む声もあるが、公共負担の大幅な増加につながるので反対！コミュニティ（市全額負担の場合）バス創設を望む声もあるが、負担（市）の割に利用者が少ないので、作るべきではない！（他市の状況を見てもあきらか）（野上町 3 丁目/男性/23-44 歳）
- 1億5千万円も税金負担しているなら、本当に困っている人のみにタクシーより安い値段で（少しの公共負担で）交通手段を確保してもらいたい。路線バスを減らし本当に困っている人のみ別の方法で公共負担してもらいたい。赤字がある事を市民にもっと告知すべき。（広報などで）近所での乗り合い（自家用車）を推進しては。（長淵 5 丁目/女性/45-64 歳）

(4) 運行効率の改善

- 東青梅～岩井堂間は、都営バス(梅 74 甲・乙)と西武バス(飯 41・41-1)によって運行されているが、時間帯によっては発車時刻に近い便が見られる。
- 利用者からは、同時刻に2台のバスが連なって走ること非効率なことにみられており、改善が求められている。
- また、同一区間に公共負担がある路線とない路線が混在していることとなり、公共負担の使われ方として望ましいとはいえないことから改善が望まれる。

図 東青梅～岩井堂間のバス路線

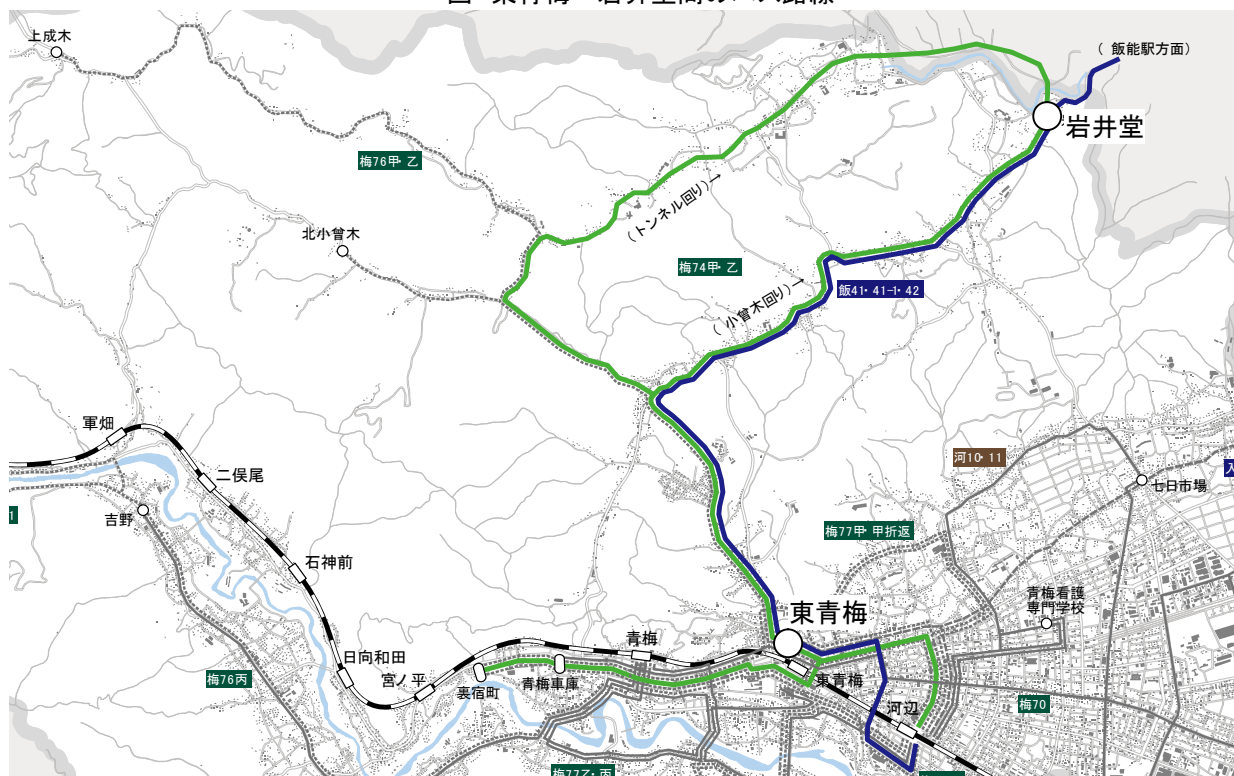


表 東青梅と岩井堂の時刻表

	東青梅発		岩井堂発		
	西武バス (飯 41・41-1)	都営バス (梅 74 小曾木回り)	西武バス (飯 41・41-1)	都営バス (梅 74 トンネル回り)	
6				00	11 52
7	35	32	02 24	04	39
8	06		34	39	
9	27	40		49	
10		15	37	05	
11	33	50		54	
12	48		15	15	53
13		54	15	54	
14	05				
15		20	14	01	
16	03		44	44	
17	18	21			
18	46	17 50	18 59		
19	27	25	49		
20	15	10			
21		20			

赤：西武バスと都営バスの発時刻が5分以内の便

【自由意見より抜粋】

- 都営バスの時刻と西武バスの時刻がとても近いのでどちらかをづらして欲しいと思います。(野上町 2 丁目/男性/45-64 歳)
- 赤字補助に1億5千万円もの税金投入をしていたことに驚きを隠せませんでした。もっと小さいバスに切り替えていって税の負担をできる限り小さくする必要があると思います。また、都バスと西武バスが続けて来ているなどしているので、時間をずらすなどの工夫も必要では？(根ヶ布 2 丁目/女性/45-64 歳)
- 都営と西武バスの時間を一緒にならないようにしてほしい。(小曾木 3 丁目/女性/65-74 歳)
- 都バスと西武バスの運行時間が接近しており、その後の運行までの時間が空いているので、もう少し等間隔で運行していただければ、より多くの方が利用できるのではと常々考えているところです。(黒沢 2 丁目/男性/45-64 歳)
- 老人二人生活なので、バスを利用したいがバス停は遠いし本数も少ない。また、西武バスと都営バスが走っているが、両方とも同時刻に前後してくる。次のバスまで1時間もある、お互いに時間を調節すればもっと利用すると思う。しかし実際はバス停まで行くのが遠くて大変で利用したいとは思わない。経路を変更してほしい。現行のままだとすれば今私の目の前を“回送”バスが1日に何台も通っているが(都バス)路線ではないとの理由で乗せてくれないし。黒沢2丁目から東青梅方面に行ってしまう、黒沢3丁目に住んでいる子供たちは黒沢3丁目方面(青梅方面)に一人、二人と20～30分も歩いている、夕方や雨の日などは大変です。その間など“成木小”で利用している“送迎バス”の空車が通り過ぎていくなど走っているが乗れないバスがある(午後)。また、朝6時頃下り方面に行く“回送バス”などは青梅車庫～青梅坂、柳川(黒沢2丁目)を通り成木方面、岩井堂方面(富岡発)、柳川(黒沢2丁目)、など回り東青梅方面に行くが回送の時走っているが乗れないノバスばかりだ。こんな事に無駄な補助金をなぜ使うのか、聞いてみると”路線”ではないとの一点張りだ、人間の作ったものは人間が変えるべきだし、これを利用しただけでももっと多くの人たちが利用すると思います。私たちの住む黒沢3丁目の人たちは、青梅市内の買物または、駅方面に行くのに老人たち(一人ぐらしなど)送ってくれる人がいない人たちは30分もかけて歩いて行き、帰りも同じだ、暗い夜道でも同じです。(タクシーに乗れば、1000円はかかる。仕方なしだ。年金生活ではやむなしだ。出掛けたくても自由に駅などに行けない(病院も同じ)。リュック姿でスニーカーで出掛けている。(黒沢 3 丁目/女性/75 歳以上)
- 西武バスと都バスが同じかそれに近い時間に着くので時間をずらしてほしい。行先(または始発駅)が違うのでなかなか難しいとバスの運転手さんに言われましたが、少しは考えていただきたい。(東青梅⇄黒沢間)(根ヶ布 2 丁目/女性/23-44 歳)
- 都バス、西武バスが続いて通る時間がありますので、15～20 分位の間隔をおいて運行を希望します。(根ヶ布 1 丁目/女性/75 歳以上)
- とにかくバスの本数が少ない。又、都バスと西武バスの時間が効率的でない。夜のバスも少ない、早い。(小曾木 2 丁目/女性/15-22 歳)
- 都バスと西武バスの発車時刻(多摩団地からの)がほぼ一緒なので2台同時にバス停に来ることが良くある。本数が少ないのに、さらに不便になり、利用しづらい。多摩団地に限って言えば、高齢者の方が多く住んでいる。坂も多く自動車がなければとても不便な場所なので、是非コミュニティバスを導入してほしい。(根ヶ布/女性/23-44 歳)
- 東青梅に出る時の路線は一応2社で運行されているのだが、いつも同じ時間になっている。(いつも西武の方が都バスの前を走っている)どう見てもおかしい。2社で1路線と考え1H当たり2本と言う事で 0 分と 30 分とかにしてほしい。EX 西武 16:38 都バス 16:48→16:15 16:45 5:50 発位がほしい。また、残業出来るのが2時間位までで会社を20:00に出るとタクシーのみ。23時台まで走ってほしい。利用する側にとっては会社(都バス、西武、西東京)はあまり関係無いので路線の平行区間では運転間隔を平均化してほしい。(小曾木 4 丁目/男性/23-44 歳)